

本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第 1 章 本製品について

この章では、本製品の特長、各部の名称について説明しています。

第 2 章 本製品の取り付け／取り外し

この章では、マネジメントブレードのシャーシへの取り付け／取り外し手順、および初期設定について説明しています。

第 3 章 対応ソフトウェアについて

この章では、マネジメントブレードに対応しているソフトウェアについて説明しています。

第 4 章 Web UI について

この章では、マネジメントブレードでブレードサーバシステムを管理／運用するための Web UI (ウェブユーザインタフェース) について説明しています。

第 5 章 CLI について

この章では、マネジメントブレードでブレードサーバシステムを管理／運用するための CLI (コマンドラインインタフェース) について説明しています。

第 6 章 技術情報

この章では、マネジメントブレードの仕様および運用上の留意点について説明しています。

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、シャーシまたはサーバブレードに添付の『安全上のご注意』をよくお読みになり、理解された上で本製品をお使いください。また、『安全上のご注意』およびマニュアルは、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

データのバックアップについて

本装置に記録されたデータ（基本ソフト、アプリケーションソフトも含む）の保全については、お客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。また、修理を依頼される場合も、データの保全については保証されませんので、事前にお客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。データが失われた場合でも、保証書の記載事項以外は、弊社ではいかなる理由においても、それに伴う損害やデータの保全・修復などの責任を一切負いかねますのでご了承ください。

アルミ電解コンデンサについて

本装置のプリント基板ユニットやマウス、キーボードに使用しているアルミ電解コンデンサは寿命部品であり、寿命が尽きた状態で使用し続けると、電解液の漏れや枯渇が生じ、異臭の発生や発煙の原因になる場合があります。目安として、通常のオフィス環境（25℃）で使用された場合には、保守サポート期間内（5年）には寿命に至らないものと想定していますが、高温環境下での稼働等、お客様のご使用環境によっては、より短期間で寿命に至る場合があります。寿命を越えた部品について、交換が可能な場合は、有償にて対応させていただきます。なお、上記はあくまで目安であり、保守サポート期間内に故障しないことをお約束するものではありません。

本製品のハイセイフティ用途での使用について


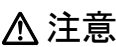
本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的な用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療器具、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

社内のドキュメントには「外国為替および外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。




本書の表記

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。



 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】 + 【F3】キー、【Shift】 + 【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:  
  ↑  ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
- 使用するOSがWindows、MS-DOSまたはDOSの場合は、コマンド入力を英大文字、英小文字のどちらで入力してもかまいません。
- ご使用の環境によって、「¥」が「\」と表示される場合があります。
- CD-ROMドライブのドライブ名を、[CD-ROMドライブ]で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

```
[CD-ROMドライブ]:¥setup.exe
```

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつないで表記しています。

例： 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。
 なお、本書ではお使いの OS 以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記	
PRIMERGY BX600	サーバ本体、または本サーバ (ブレードサーバシステム全体を指します)	
PRIMERGY BX600 マネジメントブレード	マネジメントブレード/本マネジメントブレード/本製品	
PRIMERGY BX600 シャーシ	シャーシ	
PRIMERGY BX660 サーバブレード	BX660 サーバブレード	サーバブレード
PRIMERGY BX600 サーバブレード	BX600 サーバブレード	
PRIMERGY BX600 スイッチブレード	スイッチブレード	
PRIMERGY BX600 ファイバーチャネルバススルーブレード	ファイバーチャネルバススルーブレード	
Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard Edition	Windows Server 2003, Standard Edition、 または Windows Server 2003	Windows
Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise Edition	Windows Server 2003, Enterprise Edition、 または Windows Server 2003	
Microsoft® Windows® 2000 Server	Windows 2000 Server	
Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server	Windows 2000 Advanced Server、または Windows 2000 Server	

■ マネジメントブレードのファームウェアについて

マネジメントブレードは、ファームウェアの版数によって Web UI / CLI の画面構成や設定項目が異なります。マニュアルを参照する場合は、ご利用のマネジメントブレードのファームウェアの版数に合った最新版をご使用ください。

なお、本書は次のバージョンに準拠して記述してあります (○ : サポート、- : 未サポート)。

マネジメントブレード ファームウェア版数	PRIMERGY BX600 サーバブレード	PRIMERGY BX660 サーバブレード
V1.33C	○	-
V1.41 以降	○	○

重要

- ▶ マネジメントブレードのファームウェア V1.41 以降の適用前に、ご利用の PRIMERGYBX600 サーバブレードの BIOS を 3B17 以降、BMC ファームウェアを 3B08 以降にアップデートしてください。

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 その他の各製品名は、各社の商標、登録商標または著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2004-2005

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

目次

第 1 章	本製品について	
	1.1 特長	10
	1.2 名称と働き	11
第 2 章	本製品の取り付け／取り外し	
	2.1 作業を始める前に.....	14
	2.2 取り付け／取り外し	15
	2.3 初期設定.....	16
	2.3.1 管理ソフトについて	16
	2.3.2 通信インタフェースの設定	16
	2.3.3 管理ユーザの設定	19
	2.3.4 ブレードサーバにおける時刻管理について	20
	2.3.5 各種の設定値について	21
	2.3.6 マネジメントブレード運用時の注意事項	21
第 3 章	対応ソフトウェアについて	
	3.1 対応ソフトウェアについて.....	24
第 4 章	Web UI について	
	4.1 Web UI	28
	4.1.1 スタート画面	29
	4.1.2 設定項目メニュー	30
	4.1.3 システム設定ページ	32
	4.1.4 System Property グループ	33
	4.1.5 Management Blade グループ	49
	4.1.6 Switch Blade グループ	50
	4.1.7 Server Blade グループ	51
第 5 章	CLI について	
	5.1 CLI の使用方法	62
	5.1.1 シリアルインタフェースを使用する	62
	5.1.2 LAN インタフェース経由の Telnet を使用する	63
	5.2 各画面の基本操作.....	64
	5.3 マネジメントブレードの起動およびログオン.....	65
	5.4 マネジメントブレードの各操作方法.....	67
	5.4.1 コンソールメニュー	67
	5.4.2 Management Agent	68
	5.4.3 Console Redirection	127

5.4.4 Logout	130
5.4.5 Reboot	130
5.4.6 System Information Dump	131

第 6 章 技術情報

6.1 仕様	134
6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項	135
6.2.1 リモート電源切断について	135
6.2.2 graceful シャットダウン機能について	135
6.3 留意事項	136

第 1 章

本製品について

この章では、本製品の特長、各部の名称について説明しています。

1.1 特長	10
1.2 名称と働き	11

1.1 特長

本製品は、シャーシ内の電源状態／温度状態／システムファン状態の各種監視および制御を実施します。また、LANポートを持ち、遠隔地からも状態監視／制御が可能です。

■ マネジメントブレードの特長

- 専用のCPU、LAN インタフェース、シリアルインタフェースを装備しているため、各ブレードの状態（ハング状態など）に依存せず動作が可能です。
- マネジメントブレードは、シャーシに標準で2台搭載されており、管理機能が冗長化されています。マネジメントブレードの冗長運転時は、万ーマネジメントブレードに故障が起きても電源を入れたまま交換できます。
- Webブラウザとコマンドラインの2つの管理ツールをサポートし、シャーシを簡単に管理できます。
- SNMPをサポートし、ネットワーク上でシャーシの状態監視／制御が可能です。

■ シャーシ管理

- シャーシ内の各ブレード（サーバブレード、スイッチブレード、マネジメントブレード）、電源ユニット、システムファンユニットの状態を監視できます。
- シャーシ内に搭載されるサーバブレードのディスプレイ／キーボード／マウス切り替え機能をサポートします。

■ 各ブレード管理

- サーバブレードに対して、電源制御を行えます。
- サーバブレード、スイッチブレードに対して、コンソールリダイレクションをサポート（テキスト画面のみ）します。
- サーバブレードのBIOS情報をマネジメントブレードに退避し、サーバブレードの交換時に復元できます。また、退避したデータをシャーシ内の他のサーバブレードへ復元できます。

本製品は次の通信インタフェースをサポートしています。

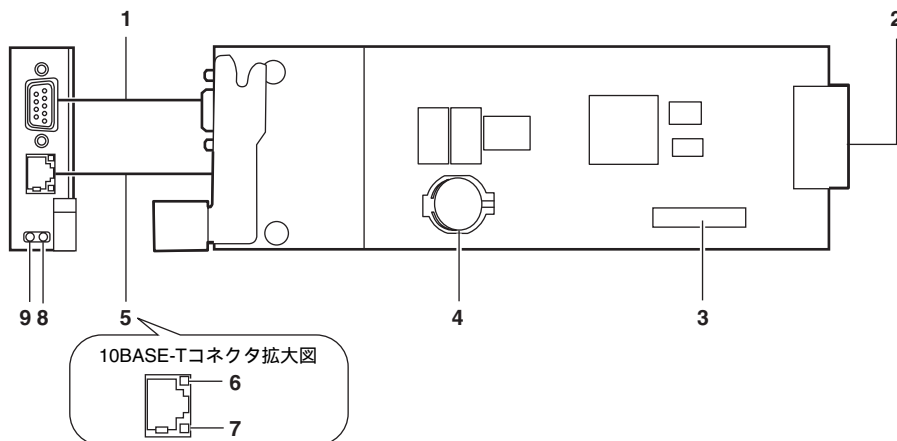
- LAN インタフェース（10BASE-T）
- シリアルインタフェース

POINT

- ▶ LAN ケーブルはオプションです。本製品には含まれません。カテゴリ3以上のケーブルをご使用ください。RS-232C クロスケーブルは、シャーシに1本添付されています。

1.2 名称と働き

ここでは、本製品の各部の名称と働きを説明します。



1	シリアルポート (9 ピン) RS-232C クロスケーブル (シャーシに 1 本標準添付) を介して、管理端末と接続します。
2	シャーシ接続用コネクタ シャーシに接続するためのコネクタです。
3	ジャンパピン
4	リチウム電池
5	10BASE-T コネクタ 非シールド・ツイストペア (UTP) ケーブルを接続します。
6	LAN アクティブランプ 点滅 (Amber) : データ転送中。 ※マネジメントブレードの NIC 診断機能により、一定間隔で点滅することがあります。
7	LAN リンクランプ 点灯 (Green) : リンク確立中。

8	マネジメントブレードマスタ表示ランプ								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>ランプの状態</th> <th>マネジメントブレードの状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>点灯 (Green)</td> <td>マスタモードで動作中</td> </tr> <tr> <td>消灯</td> <td>スレープモードで動作中</td> </tr> </tbody> </table>	ランプの状態	マネジメントブレードの状態	点灯 (Green)	マスタモードで動作中	消灯	スレープモードで動作中		
ランプの状態	マネジメントブレードの状態								
点灯 (Green)	マスタモードで動作中								
消灯	スレープモードで動作中								
9	マネジメントブレード異常ランプ								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>ランプの状態</th> <th>マネジメントブレードの状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>点灯 (Amber)</td> <td>マネジメントブレードに異常があります (マネジメントブレードの非冗長構成時)。</td> </tr> <tr> <td>点滅 (Amber)</td> <td>マネジメントブレードに異常があります (マネジメントブレードの冗長構成時)。</td> </tr> <tr> <td>消灯</td> <td>異常が検出されていません。</td> </tr> </tbody> </table> <p>このランプが点灯/点滅時は、担当保守員または装置管理者に連絡してください。</p>	ランプの状態	マネジメントブレードの状態	点灯 (Amber)	マネジメントブレードに異常があります (マネジメントブレードの非冗長構成時)。	点滅 (Amber)	マネジメントブレードに異常があります (マネジメントブレードの冗長構成時)。	消灯	異常が検出されていません。
ランプの状態	マネジメントブレードの状態								
点灯 (Amber)	マネジメントブレードに異常があります (マネジメントブレードの非冗長構成時)。								
点滅 (Amber)	マネジメントブレードに異常があります (マネジメントブレードの冗長構成時)。								
消灯	異常が検出されていません。								

POINT

- ▶ マネジメントブレードを再起動させたり動作モードを変更した場合に、マネジメントブレード異常ランプが一時的に点灯や点滅しますが、しばらくして消灯すれば異常ではありません。

第 2 章

本製品の取り付け／取り外し

この章では、マネジメントブレードのシャーシへの取り付け／取り外し手順、および初期設定について説明しています。

2.1 作業を始める前に	14
2.2 取り付け／取り外し	15
2.3 初期設定	16

2.1 作業を始める前に

マネジメントブレードをシャーシに取り付け／取り外しをする場合には、作業を始める前にあらかじめ次の準備を行ってください。

■ 用意するもの

作業を始める前に、次のものをご用意ください。

- マネジメントブレード
- PRIMERGY ドキュメント & ツール CD
- 管理端末（パソコン等）

POINT

- ▶ 管理端末には一般的な Web ブラウザやターミナルソフトウェアが動作する環境が必要です。また、通信インターフェースとして LAN ポートまたはシリアルポートが必要になります。

2.2 取り付け／取り外し

マネジメントブレードの取り付け／取り外しは『ハードウェアガイド シャーシ編』を参照してください。

重要

- ▶ マネジメントブレードはシャーシを常時監視するため、シャーシの電源ケーブルが接続された時点から1分程度で起動してブレードシステムの管理を開始します。
- ▶ 2台のマネジメントブレードのファームウェアの版数は、必ず同一にしてください（ファームウェアの更新中を除く）。

2.3 初期設定

マネジメントブレードの運用を開始する前に、いくつか設定を行う必要があります。

2.3.1 管理ソフトについて

マネジメントブレードは、Web UI（ウェブユーザインタフェース）と CLI（コマンドラインインタフェース）と呼ばれる管理ツールをサポートしています。管理端末から、これらの管理ツールを用いてブレードサーバのシャーシおよび各ブレードの管理を容易に行えます。

- Web UI は、LAN 経由で Web ブラウザを通じての運用／管理を行えます。
- CLI は、シリアルポートまたは LAN 経由の Telnet プロトコルを用いたコンソールメニュー上でコマンドラインベースでの運用／管理を行えます。

2.3.2 通信インタフェースの設定

お使いになる管理ツールと通信手段に応じて、次の手順で通信インタフェースの必要な設定を行います。

- Web UI または Telnet 経由の CLI を使用する場合
→ 「**LAN インタフェースの設定**」(P.17)
- シリアルインタフェース経由の CLI を使用する場合
→ 「**シリアルインタフェースの設定**」(P.18)

POINT

- ▶ 初期設定ではデフォルトユーザ設定のユーザ名「root」、パスワード「root」で各管理ツールにアクセスしてください。パスワードの大文字・小文字は区別されます。

■ LAN インタフェースの設定

LAN インタフェースの設定手順は次のとおりです。

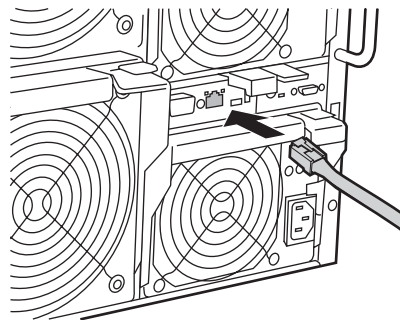
重要

- ▶ マネジメントブレードの LAN インタフェースは、10Mbps 全二重固定のため、接続するハブやルータのポートは必ず 10Mbps 全二重固定に設定してください。オートネゴシエーションや 10Mbps 半二重設定の場合は、コリジョンが発生し、通信効率が著しく低下します。

1 管理端末とマネジメントブレードを、ご使用のネットワークに合わせて LAN ケーブルで接続します。

1. LAN ケーブルをマネジメントブレードに接続します。

LAN ケーブルのコネクタを、マネジメントブレードの 10BASE-T コネクタに接続します。



2. LAN ケーブルをハブやルータなどに接続します。

もう片方のコネクタを、管理端末と接続されたハブやルータなどに接続します。

重要

- ▶ マネジメントブレードの LAN ポートは 10BASE-T 全二重固定です。同一ネットワーク内で速度の異なるポートと接続すると、LAN の転送性能が低下する場合があります。たとえば、IGMP 機能のないハブを使用してブロードキャストやマルチキャスト通信を行う場合は、一番速度の遅いポートに全体の速度が合わせられます。ネットワークの接続を行う場合には、この問題を考慮して構築を行ってください。
- ▶ マネジメントブレードを冗長構成で使用する場合は、LAN ケーブルをハブなどを介してマスタとスレーブの両方のマネジメントブレードに接続してください。マスタのマネジメントブレードに重大な障害が起きた場合に、スレーブからマスタに切り替わったマネジメントブレードにおいて自動的に通信経路を変更するため、LAN インタフェース経由の管理／運用を接続の変更をせずに続けることができます（通信経路の変更には約 30 秒かかります）。ただし、マネジメントブレードの NIC 故障や LAN ケーブルの切断などにより LAN インタフェースによる通信が行えなくなった場合は、マネジメントブレードのマスタの切り替えは行われないので、LAN インタフェース経由の管理／運用は行えなくなります。この場合においても LAN インタフェース経由の管理／運用を続ける必要がある場合は、「● 9. NIC Status Detection (1_3_9)」(→ P.93) を参照して LAN インタフェースのステータス監視機能を有効にしてください。マスタを強制的に切り替えることにより、管理／運用を続けることができます。

2 管理端末から Web ブラウザを起動します。

サポートする Web ブラウザは「4.1 Web UI」(→ P.28) を参照してください。

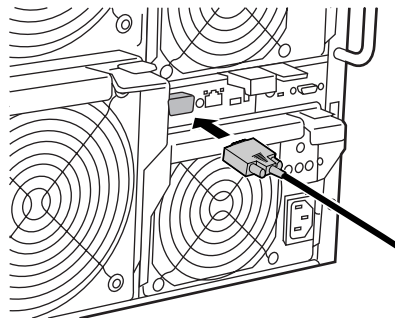
- 3 Web ブラウザからマネジメントブレードの Web UI にアクセスします。
初期設定ではデフォルト値 (IP アドレス 192.168.1.1 / サブネットマスク 255.255.255.0) を使用してアクセスしてください。
アクセス方法は「4.1 Web UI」(→ P.28) を参照してください。
- 4 表示されたマネジメントブレードのホームページの設定項目メニューで [System Property] → [LAN Interface] の順にクリックして、LAN インタフェースの設定を行います。
設定方法は「● LAN Interface」(→ P.40) を参照してください。

■ シリアルインタフェースの設定

- 1 管理端末とマネジメントブレードをシャーシに添付された RS-232C クロスケーブルで接続します。

1. RS-232C クロスケーブルをマネジメントブレードに接続します。

RS-232C クロスケーブルのコネクタを、マスターモードで動作しているマネジメントブレードのシリアルポートに接続します。



2. RS-232C クロスケーブルを管理端末に接続します。
もう片方のコネクタを、管理端末のシリアルポートに接続します。

重要

- ▶ 管理端末は、マスターモードで動作しているマネジメントブレードに接続してください。スレーブモードで動作しているマネジメントブレードのシリアルポートからは、CLIには接続できません。マネジメントブレードの動作モードは、マネジメントブレードマスタ表示ランプで確認してください (→ 「1.2 名称と働き」(P.11))。

- 2 管理端末でターミナルソフトウェアを起動し、マネジメントブレードに接続できる設定を行います。
設定方法は「5.1.1 シリアルインタフェースを使用する」(→ P.62) を参照してください。

2.3.3 管理ユーザの設定

マネジメントブレードにはデフォルトで管理者権限をもつユーザ名「root」、パスワード「root」が設定されています。
セキュリティ確保のためにパスワードは必ず変更してください。

■ Web UI からのパスワードの変更

- 1 管理端末から Web UI にアクセスします。
- 2 [System Property] → [User Accounts] の順にクリックします。
「User Accounts」ページが開きます。
- 3 [root] をクリックします。
ユーザ名：root の「Account」ページが開きます。
- 4 次の項目を入力し、[Apply] をクリックします。
 - ・ Password：新しいパスワードを入力します。
 - ・ Confirm Password：新しいパスワードを再度入力します。

■ CLI からのパスワードの変更

- 1 管理端末から CLI にログオンします。
- 2 「(1) Management Agent」 → 「(6) Username And Password」の順に移動します。
(1) の「root」を選択します。
- 3 次の画面で (2) の「Change Password」を選択して、パスワードを変更します。

```
+-----+
|           Edit Username And Password           page_1_6_2           |
+-----+

(1) Change Username : root
(2) Change Password : ***
(3) User Permission : administrator
Enter selection or type (0) to quit:
```

POINT

- ▶ パスワードは最長 16 文字まで設定できます。また、大文字と小文字は区別されます。

2.3.4 ブレードサーバにおける時刻管理について

初期設定時にはマネジメントブレードの時刻／タイムゾーンの確認・設定を行う必要があります。確認・設定は、Web UI (→「● System Information」(P.46))、CLI (→「■ Management Agent Information (1_1)」(P.69))で行います。その際は次のことに注意してください。

■ サーバブレードとマネジメントブレードの時刻同期

シャーシに搭載されるサーバブレードの時刻は、BIOS セットアップユーティリティにおいて「Sync RTC with Mgmt. Blade」を有効にすることによりマネジメントブレードと時刻の同期をさせることができます (デフォルト値は有効)。

この機能により、シャーシに搭載される複数のサーバブレードとマネジメントブレード間で時刻を同期させることができます。

→『BX660 サーバブレードユーザーズガイド 第8章 ハードウェアの設定／各種ユーティリティ』

→『BX600 サーバブレードユーザーズガイド 第9章 ハードウェアの設定／各種ユーティリティ』

■ マネジメントブレードのネットワーク経由の時刻合わせ

- ▶ サーバブレードに精度の高いシステム時間を要求される等でサーバブレードとマネジメントブレードとの間で時刻同期を行いたくない場合には、「Sync RTC with Mgmt. Blade」を無効に設定してください。その場合はサーバブレードのシステム設計にネットワーク経由の時刻合わせのしくみ (NTP など) を取り入れてください。

マネジメントブレードは、ネットワーク経由の時刻合わせのしくみとして NTP をサポートしています。Web UI (→「● NTP」(P.42))、CLI (→「● 17. Agent NTP (1_1_17)」(P.77)) で設定します。この機能を使用する場合は、ブレードサーバの運用開始前または運用停止中に設定および確認を完了してください。

重要

- ▶ ブレードサーバの運用中に NTP の設定を変更しないでください。サーバブレードとマネジメントブレードの時刻同期の機能により、サーバブレードの OS 等のシステムに不具合を生じるおそれがあります。

2.3.5 各種の設定値について

マネジメントブレードを運用するため、管理ツール上で設置環境に合うように設定を行ってください。

重要

- ▶ マネジメントブレードで行った各種の設定値は、画面のハードコピーやメモなどで退避を行ってください。設定の復元などや保守時に必要になります。

2.3.6 マネジメントブレード運用時の注意事項

マネジメントブレードの運用について、次の注意事項があります。

■ マネジメントブレードの冗長機能について

本サーバでは、標準で2台のマネジメントブレードが搭載されており、管理機能が冗長化されています。

冗長構成の場合、マネジメントブレードは1台がマスターモード、もう1台がスレーブモードで動作します。通常時はマスターモードのマネジメントブレードがシステムの管理・運用を行います。スレーブモードのマネジメントブレードはマスタを常に監視しています。

万一マスタに故障が起きた場合、それをスレーブが検出してマスタモードに切り替わり、運用を停止することなく管理・運用機能を引き継ぎます。

重要

- ▶ 2台のマネジメントブレードのファームウェアの版数は、必ず同一にしてください（ファームウェアの更新中を除く）。

POINT

- ▶ マネジメントブレードは、特に異常がない限り、電源ケーブルを接続した直後はスロット1に取り付けられているものがマスタとして動作します。
- ▶ 万一、マネジメントブレードの故障などでマスタの切り替えが起こった場合、サーバブレードのKVMの選択やLANインタフェースの接続（Web UI、Telnet など）はいったん解除されます。操作を続ける場合は、マネジメントブレードのマスタ切り替え動作が終了したあと、再度操作を行ってください。

第3章

対応ソフトウェアについて

この章では、マネジメントブレードに対応しているソフトウェアについて説明しています。

3

3.1 対応ソフトウェアについて	24
------------------------	----

3.1 対応ソフトウェアについて

マネジメントブレードに対応するソフトウェアは、次のとおりです。

- **ServerView V3.50 以降**

ServerView 管理コンソールからブレードサーバシステムの状態監視、遠隔操作が行えます。

- **RemoteControlService V3.06 以降**

CLI の操作を Telnet 経由で行えます。

ServerView 管理コンソールと RemoteControlService は、シャーシとサーバブレード（シャーシ搭載出荷用を除く）に添付の PRIMERGY ドキュメント & ツール CD に添付されています。バージョンの新しい方を使用してください。

ServerView と RemoteControlService のインストール方法については、『ユーザーズガイド』および『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

POINT

- ▶ ServerView を使用するために、マネジメントブレードに対して次の設定を行ってください。
 - ServerView 管理コンソールをインストールした管理端末と、マネジメントブレードおよびサーバブレードを、LAN ネットワークで接続してください。
 - LAN インタフェースの設定で、IP やサブネットマスクなどの設定を行ってください。
 - SNMP の設定を行ってください。SNMP を「Enable」にして、SNMP のコミュニティ名は ServerView と同じになるように設定します。
 - [SNMP Trap Destination] に ServerView 管理コンソールをインストールした管理端末の IP アドレスを設定します。
 - Management Agent System Name を設定してください（推奨）。
 - Web UI (→「● System Information」(P.46))
 - CLI (→「■ Management Agent Information (1_1)」(P.69))

- **SystemcastWizard Professional V3.0 以降（オプション）**

ブレードサーバシステムへの OS 一括インストールなどを実現するソフトウェアです。サーバブレードをネットワークブートさせることにより、搭載ハードディスクの SCSI アレイシステムの構築および区画作成、OS インストールなどの作業をリモートの端末から実行できます。

また、ネットワーク経由でサーバブレードの OS 実行環境をバックアップ／復元することができます。動作確認済みの OS およびアプリケーションの環境をバックアップすることにより、問題発生時にもサーバブレードの OS・アプリケーション環境の再構築が簡単にできます。

 **POINT**

- ▶ SystemcastWizard Professional を使用するために、マネジメントブレードに対して次の設定を行ってください。
 - ・ SystemcastWizard Professional がインストールされたサーバ（デプロイメントサーバ）とマネジメントブレードおよびサーバブレードのポート 1 を LAN ネットワークで接続します。
 - ・ LAN インタフェースの設定で、IP やサブネットマスクなどの設定を固定で行います。DHCP での設定は行わないでください。
 - ・ SNMP の設定を行います。SNMP を「Enable」にして、SNMP のコミュニティ名を設定します。

次の機能のためにマネジメントブレードを利用しています。

- －各サーバブレードにリモートから電源投入を指示し、PXE（Preboot eXecution Environment）を起動させる。
- －マネジメントブレードに格納された各サーバブレードの Deployment Configuration の構成情報を読み出し、SystemcastWizard Professional のコンピュータ管理情報として利用する。

SystemcastWizard Professional のインストール方法、利用方法などについては、SystemcastWizard Professional に添付されるオンラインマニュアルを参照してください。

第4章

Web UI について

4

この章では、マネジメントブレードでブレードサーバシステムを管理／運用するための Web UI（ウェブユーザインタフェース）について説明しています。

4.1 Web UI	28
------------------	----

4.1 Web UI

マネジメントブレードは Web インタフェースをサポートしており、次の Web ブラウザからアクセスできます。

- Internet Explorer (Version 5.0、5.5 および 6.0 以降)
- Netscape (Version 4.75、4.78 および 6.x 以降^(*))

*) SSL の機能を使用する場合は Version 7.0 以降が必要になります。

マネジメントブレードに Web UI からアクセスするには、Web ブラウザを起動し、アドレスバーに次のアドレスを入力します。<IP アドレス>にはマネジメントブレードの IP アドレスを入れてください。

- http://<IP アドレス>:<ポート番号 (デフォルト : 80) > (HTTP SSL が「disable」の場合)
- https://<IP アドレス>:<ポート番号 (デフォルト : 443) > (HTTP SSL が「enable」の場合)

ユーザ名とパスワードの入力を求めるダイアログボックスが表示されるので、入力してログインしてください。

POINT

- ▶ ご購入時、HTTP SSL は「disable」に設定されています。
- ▶ ServerView 管理コンソールから Web インタフェースにアクセスすることもできます。アクセス方法については、『ServerView ユーザーズガイド 第3章 ServerView の使用方法』を参照してください。

4.1.1 スタート画面

開始アドレスにアクセスし、ユーザ名とパスワードを入力して認証されると、スタート画面としてマネジメントブレードのホームページが表示されます。Web UI での設定は、この画面から始めます。

ホームページの左側には各種設定項目がエクスプローラのように表示されるメニューが、右側にはメニューから選択した項目のシステム設定ページが表示されます。

ヘッダ領域

システム設定ページ

設定項目メニュー

Overall Status	Temperature Sensors	Server Blades
ok	1 ok 2 ok	1 ok
	3 ok 4 ok	2 not-present
Temperature	5 ok 6 ok	3 not-present
ok	7 not-available 8 not-available	4 ok
Fans	9 ok 10 ok	5 ok
ok	11 ok 12 ok	6 ok
		7 ok
Power Supply	1 ok 2 ok	8 ok
ok	3 ok 4 ok	9 ok
	5 ok 6 ok	10 ok
Management Blades	7 ok 8 ok	
1 ok	9 ok 10 ok	
2 standby	11 ok 12 ok	
	13 ok 14 ok	
Switch Blades	15 ok 16 ok	
1 ok		
2 ok		
3 not-present	1 ok 2 ok	
4 not-present	3 ok 4 ok	

POINT

- ▶ ホームページのシステム設定ページには、各コンポーネントの状態が表示されます。状態をクリックすると、詳細ページに移動します。

ヘッダ領域には、次のリンクが表示されます。

アイコン	説明
	クリックすると、該当フレームの再読み込みが行われます。
	クリックすると、マネジメントブレードのホームページに移動します。

4.1.2 設定項目メニュー

画面の左側に表示される設定項目メニューには、ブレードサーバシステムのシステム構成、プロパティ、システムに搭載されているブレードなどが表示されます。このページは「System Property」、「Management Blade」、「Switch Blade」、「Server Blade」の4つのグループに分けられています。

■ System Property グループ

このグループは、システム構成のために使用します。
→ 「4.1.4 System Property グループ」 (P.33)

● System Event Log

ログを表示したり、アラームハンドラなどを設定します。
→ 「● System Event Log」 (P.33)

• Event Log

マネジメントブレードやサーバブレードのイベントログを表示します。

• Alarm Handler

アラームハンドラを設定します。

● Environment/Maintenance

シャーシ、ファン、電源ユニットなどの環境装置について、ステータスの監視および動作の制御を行います。

また、マネジメントブレードに関して再起動の設定を行います。

→ 「● Environment/Maintenance」 (P.35)

• Firmware Update

通常は使用しません。

• Power Supply

電源ユニットのステータスや稼働時間などの情報を表示し、また、シャーシのメイン電源の ON/OFF、サーバブレードの電源の一斉 ON/OFF などの設定を行います。

• UPS

使用しません。

• Chassis

シャーシのドアステータスの表示や温度情報の表示/設定、および保守ランプの点灯指示を行います。

• Fans

システムファンユニットのステータスや稼働時間などの表示/設定、ファンテストの設定を行います。

• Reset management Blade

マネジメントブレードの再起動を行います。

● LAN Interface

ネットワーク構成に関する設定を行います。

→ 「● LAN Interface」 (P.40)

- **Internet Protocol**

IP アドレスなどの設定を行います。

- **Domain Name Server**

DNS の設定を行います。

- **HTTP**

HTTP のポート番号などを設定します。

- **Telnet**

Telnet のポート番号などを設定します。

- **NTP**

NTP の設定を行います。

- **SSL**

SSL の設定を行います。

- **Duplex Mode**

使用しません。

● SNMP Interface

SNMP に関する情報を設定します。

→ 「● SNMP Interface」 (P.43)

- **SNMP Communities**

SNMP のコミュニティ名を設定します。

- **SNMP Trap Destination**

SNMP トラップの送信先を設定します。

● Console Redirection

コンソールリダイレクションなどに関する設定を行います。

→ 「● Console Redirection」 (P.44)

- **Keyboard/Mouse/Video Switch to Local**

KVM (キーボード/ディスプレイ/マウス) の切り替えの設定を行います。

- **IP Filter for Telnet / IP Filter for HTTP / IP Filter for SNMP**

IP のフィルタリングを行います。

● Fiber Channel

ファイバーチャネルパススルーの状態を表示します。

→ 「● Fiber Channel」 (P.45)

● System Information

エージェント情報や時刻、タイムゾーン等の設定を行います。

→ 「● System Information」 (P.46)

● User Accounts

新しいユーザの追加とパスワードの変更を行います。

→ 「● User Accounts」 (P.47)

● Deployment Table

Deployment ソフトなどで使用可能な各サーバブレードのパラメータの表示／設定を行います。

→ 「● Deployment Table」 (P.48)

● PPP and Modem Setting

本機能はサポートしていません。

■ Management Blade グループ

搭載されているマネジメントブレードの情報の表示を行います。

→ 「4.1.5 Management Blade グループ」 (P.49)

■ Switch Blade グループ

搭載されているスイッチブレードの情報の表示と保守ランプの制御を行います。

→ 「4.1.6 Switch Blade グループ」 (P.50)

■ Server Blade グループ

搭載されているサーバブレードの情報の表示と各種設定を行います。

→ 「4.1.7 Server Blade グループ」 (P.51)

4.1.3 システム設定ページ

画面の右側に表示されるシステム設定ページでは、設定項目メニューから選択した項目の各種設定や情報の表示を行います。

システム設定ページ内では、すべてのページのヘッダ領域とフッタ領域が同じ方法で構成されています。

ヘッダ領域には、現在のページのタイトルが表示されます。




フッタ領域には、次の情報が表示されます。

- Controller time
マネジメントブレードの日付と時刻を確認します。

POINT

- ▶ 表示される日付と時刻は Web ページにアクセスしたときのものです。

また、ヘッダ領域とフッタ領域の両方に次のリンクが表示されます。

アイコン	説明
	クリックすると、ヘルプファイル（英語）が表示されます。
	クリックすると、表示されているページの最上部に移動します。
	クリックすると、表示されているページの最下部に移動します。

イベントログの表示する内容は、プルダウンメニューの中からエラーレベルを選択することによってフィルタリングすることができます。

—ALL Event

すべてのログを表示します。

—Informational Event

システムの適切なオペレーション。システムのイベントをユーザに通知するために記録されます。

—Minor Event

重要度の低いイベントについての警告。状況が変わらなければ、オペレーションステータスの喪失をもたらすような重大な問題を示しています。

必要に応じて問題を解決する必要があります。

—Major Event

重要度の高いイベントについての警告。状況が変わらなければ、オペレーションステータスの喪失をもたらすような重大な問題を示しています。

できるだけ早く問題を解決する必要があります。

—Critical Event

重大な問題についての警告。これらのイベントは、問題解決されないとシステムにおける誤った操作の原因になります。

[Clear All Entries] をクリックすることによってログを消去することができます。

 **POINT**

- ▶ マネジメントブレードで「Management Blade Wrap Around Event Log Enable」を「disable」に設定した場合、イベントログが最大件数になると、それ以後のログは記録されません。定期的に [Event Log] でログを確認し、必要に応じてログの保存/消去を行ってください。保存は画面のテキストをコピーして行ってください。

• **Alarm Handler**

Alarm Handler ページでは、アラームハンドラの設定全体を確認します。アラームハンドラはシステム内であるイベントが起きたとき、イベント内容を通知する電子メールを送ることができます。また、イベントログの動作を設定できます。

次に Alarm Handler ページについて説明します。

▪ **Mail Settings**

ここではメール送信についての設定を行います。

表示/設定項目	説明
To	受信側の電子メールアドレスを入力します。
From	送信側の電子メールアドレスを入力します。
Host	SMTP サービスにアクセスするために使用するホストの IP アドレスかホスト名を入力します。
Subject	電子メールの件名です。件名は PRIMMAIL に固定されています。
Administrator Name	管理者の名前を入力します。これはメールの内容として送信されます。
Phone number	管理者の連絡用の電話番号を入力します。これはメールの内容として送信されます。

• Error Forwarding

このセクションでは、送信するイベントのフィルタを設定します。アラームハンドラでは、アラームグループとエラーレベルで送信するアラームをフィルタできます。

– Error Forwarding Level

エラーレベルのフィルタにより、指定したレベルより重要度の低いアラームを送信しないようにすることができます。

• Server Blade Power On/Off Event Log Enable

サーバブレードの電源 ON/OFF やシャットダウンについて、マネジメントブレードのイベントログに記録するかどうかを設定します。

– enable

サーバブレードの電源 ON/OFF やシャットダウンに関するイベントログを記録します。

– disable

サーバブレードの電源 ON/OFF やシャットダウンに関するイベントログを記録しません。



▶ この設定を「enable」にすると、イベントログの発生件数が多くなります。イベントログの残りの件数に注意して、最大件数を超えないようにするか、次項の「Management Blade Wrap Around Event Log Enable」を「Enable」に設定して、古いログが上書きされるようにしてください。

• Management Blade Wrap Around Event Log Enable

マネジメントブレードのイベントログがいっぱいになったときのログ動作を設定します。

– Enabled (デフォルト値)

イベントログがいっぱいになった場合、古いログから順番に上書きします。

– Disabled

イベントログがいっぱいになった場合、ログ動作を停止します。

● Environment/Maintenance

Environment/Maintenance ページでは、温度 (Temperature)、電源 (Power Supply)、システムファンユニットの状態 (Door Status) に関する情報を確認します。また、温度異常、ファン故障時のアクションを設定することができます。

マネジメントブレードの再起動の指示を行うことができます。

• Firmware Update

通常は使用しません。

• Power Supply

Power Supply ページでは、電源ユニットの温度、内蔵ファン、稼働時間などの情報の表示と ON / OFF などの制御を行います。

次に、Power Supply ページについて説明します。

表示／設定項目	説明
Power Status / Power Switch	<p>電源ユニットの電源状態（メイン電源）を表示・制御します。使用する場合は「6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項」（→ P.135）を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ON または power on : シャーシのメイン電源を入れます。 ・ OFF または hard power off : シャーシのメイン電源を切ります。 ・ graceful shutdown または graceful shutdown and off : 搭載されている各サーバブレードに対して「- off」（→ P.54）を指示してからメイン電源を切ります。 <p>注意事項 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ この機能を使用する場合は、搭載されるサーバブレードに対して各種の対応が必要になります。詳細は「6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項」（→ P.135）を参照してください。対応していないサーバブレードに対してこの操作を行った場合には、ACPI シャットダウンや電源切断など予期しない動作をするおそれがありますので、選択しないでください。 <p>次のチェックボックスをオンにすると、graceful シャットダウンが失敗した場合に強制的に電源を切るように設定できます。</p> <p><input type="checkbox"/> When graceful shutdown fail, force power off after X minutes. (X は 1 ~ 7 分が選択できます)</p>
Group Status	<p>電源ユニット全体の状態を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ok : 電源ユニットは正常に動作中です。 ・ degraded : 電源ユニットに問題が起っています。 ・ critical : 電源ユニットに重大な問題が起っています。
Power Redundancy	<p>電源ユニットの冗長性の有無 (yes / no) を表示します。</p>
Power Supply unit 1 ~ 4	<p>電源ユニットスロット 1 ~ 4 に搭載されている、電源/ダミー電源ユニットの各ステータスを表示します。</p>
OVP 12V fault reaction	<p>電源が OVP (Over Voltage Protection) を検出したときの、システムの動作を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ continue : システムの動作を継続します。 ・ shutdown-and-poweroff : サーバに対してシャットダウン指示を行い、そのあと電源を切ります。
OCP 12V fault reaction	<p>電源が OCP (Over Current Protection) を検出したときの、システムの動作を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ continue : システムの動作を継続します。 ・ shutdown-and-poweroff : サーバに対してシャットダウン指示を行い、そのあと電源を切ります。

表示／設定項目	説明
Server Blade Power Switch	<p>搭載されているすべてのサーバブレードの電源を制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Turn on all server blades : 搭載されているすべてのサーバブレードの電源が、順次入ります。 Turn off all server blades : この項目を選択して [Apply] をクリックすると、確認画面が表示されます。そこで [YES] をクリックすると、搭載されているすべてのサーバブレードの「Power Status」に対して、順次「off」または「graceful shutdown and off」が指示されます（サーバブレードの「Power Status」に関しては「・ Power Status / Power Switch」(→ P.54) を参照してください)。 <p>重要 :</p> <ul style="list-style-type: none"> この項目でサーバブレードの電源制御を行う場合は、指示を行ったあとに電源の ON/OFF がすべて完了したことを Web UI のアイコンなどで確認してから、次の操作に進んでください。

POINT

- ▶ シャーシのメイン電源を入れると、スイッチブレードとシステムファンが動作を開始します。サーバブレードには電源の通電は行われますが、電源投入指示を別途行わない限り起動しません。

● 電源ユニットの定期交換について

重要

- ▶ 電源／ダミー電源ユニットは定期交換部品です (→ 『ハードウェアガイド シャーシ編』)。
定期交換後は設定の変更を行ってください。

表示／設定項目	説明
Live Time	電源／ダミー電源ユニットの動作時間を表示します。単位は時間 (hrs) です。電源／ダミー電源ユニットを交換したら、[Reset] をクリックしてこの値を 0 に設定してください。
Live Time Limited Count	電源／ダミー電源ユニットの寿命時間を表示します。

● UPS

通常は使用しません。設定を行わないでください。

• Chassis

Chassis ページでは、シャーシとシステムファンユニットの情報を表示します。また、シャーシ内の温度表示と温度異常時のアクションを設定することができます。

次に Chassis ページについて説明します。

表示/設定項目	説明
Chassis Product Version	シャーシのプロダクトバージョンを表示します。
System Information	システム情報
Overall Status	システム全体のステータスを表示します。
System LED	システム識別灯表示機能として、シャーシの保守ランプの状態を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> • on または power on : シャーシ前面と背面の保守ランプを点灯させます。 • off : シャーシ前面と背面の保守ランプを点灯させません。 • blinking : シャーシ前面と背面の保守ランプを点滅させます。
Door Status	ドアステータス
Sensor ID	対象となるシステムファンユニットを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Rear Panel-1 : システムファンユニット 1 • Rear Panel-2 : システムファンユニット 2
Status	システムファンユニットの状態を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • open : システムファンユニットが取り外されています。 • close : システムファンユニットが挿入されています。
Ambient Temperature	環境温度
No	各温度センサの番号を表示します。
Status	各温度センサの状態を表示します。
Designation	各温度センサの場所を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Housing-Left, Center, Right : シャーシの左側、中央、右側（シャーシ前面視） • Ambient : シャーシメイン電源スイッチ付近 • Switch-1 ~ 4 : スイッチブレード内部 • PSU-1 ~ 4 : 電源ユニット内部
Temperature	各温度センサで測定した温度を表示します。
Warning Level	警告する温度を表示します。
Critical Level	危険温度を表示します。
Reaction	温度が危険な値（Critical Level）に達した場合に対するアクションを表示します。

各センサに対して次のアクションを設定します。

— continue

温度異常時にもサーバを継続稼働させます。

— shutdown-and-poweroff

温度が危険な値（Critical-Level）に達すると、シャーシのメイン電源の graceful シャットダウンを行います。

POINT

- ▶ シャーシの保守ランプは、「System Overall Status」が「error」または「critical」状態のときは「on」を指示しても点滅しません。

• Fans

Fans ページでは、ファンの状態の表示とファン故障時のアクションを設定します。次に Fans ページについて説明します。

表示/設定項目	説明
ID	各ファンの番号を表示します。
Status	各ファンのステータスを表示します。
Designation	各ファンの場所を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Rear1,2_1 ~ 2 fans : システムファンユニット内蔵ファン • PowerUnit1,2,3,4-Fan-1 ~ 3 : 電源ユニット内蔵ファン (1 : 電源冷却用ファン、2 と 3 : システムファンユニット)
Normal Revolutions	各ファンの回転数を表示します。
Reaction	各ファンが異常になった場合のアクションを表示します。

各ファンに対して次のアクションを設定します。

—continue

ファン故障時にもサーバを継続稼働させます。

—shutdown-and-poweroff

ファンが異常になった場合に、シャーシのメイン電源の graceful シャットダウンを行います。

• Fans Test

ファン故障の予兆監視のために、1 日のうちの設定された時刻 (Daily test time) になるとファンの動作テストが行われます。

• Daily test time

—hour : minute

時刻を「時:分」で設定します。時間は 24 時間形式で入力します。

—disabled

ファンの動作テストは行いません。

Fan test at every start-up

チェックするとメイン電源を入れるたびにファンの動作テストを行います。

• Fans Live Time Counter

システムファンユニットの動作時間と寿命時間の表示/設定を行います。

表示/設定項目	説明
Front/Rear fans	システムファンユニットの動作時間を表示します。単位は時間 (hrs) です。システムファンユニットを交換したら、[Reset] をクリックしてこの値を 0 に設定してください。
Front/Rear fans limited count	システムファンユニットの寿命時間を表示します。

重要

- ▶ システムファンユニットは定期交換部品です (→『ハードウェアガイド シャーシ編』)。
定期交換後は設定の変更を行ってください。

• **Reset management Blade**

Reset management Blade ページでは、マネジメントブレードを再起動します。
 [Reset Management Blade] をクリックすると、マネジメントブレードが再起動します。

POINT

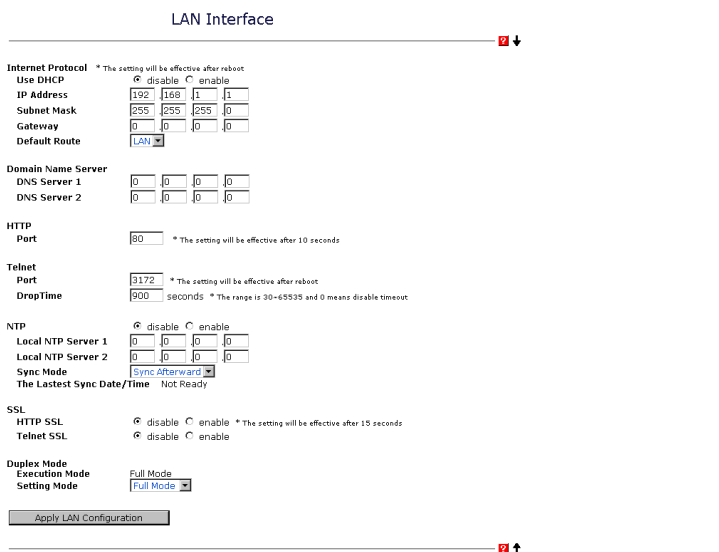
- ▶ マネジメントブレードの再起動を行うと、サーバブレードの KVM の選択や LAN インタフェースの接続 (Web UI、Telnet など) はいったん解除されます。操作を続ける場合は、マネジメントブレードの起動が終了したあと、再度操作を行ってください。
- ▶ マネジメントブレードの再起動を行っても、メイン電源およびサーバブレードの電源状態は保持されます。
- ▶ マネジメントブレードが冗長構成の場合に再起動を行うと、マスタとスレーブが切り替わります。その間の 30 秒間は LAN インタフェースによる通信ができません。

● **LAN Interface**

マネジメントブレードは Web サーバ、Telnet、SMTP、DNS、NTP、SSL などのネットワークサービスの機能を持っています。

このページではネットワーク構成の設定を行います。

[Apply LAN Configuration] をクリックすると、設定が反映されます。一部の設定は、マネジメントブレードの再起動が必要です。



• **Internet Protocol**

Internet Protocol ページでは、IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DHCP の設定を行います。

表示/設定項目	説明
Use DHCP	DHCP を使用して IP など取得するかどうかを設定します。 ・ enable : DHCP を使用します。 ・ disable : DHCP を使用しません。
IP Address	マネジメントブレードの IP アドレスを設定します。 設定必須 デフォルト値 : 192.168.1.1

表示／設定項目	説明
Subnet Mask	サブネットマスクを設定します。 設定必須 デフォルト値：255.255.255.0
Gateway	ゲートウェイの IP アドレスを設定します。
Default Route	通常は使用しません。LAN に設定してください。

POINT

- ▶ ここでの設定はマネジメントブレードの再起動後に有効になります。

• Domain Name Server

Domain Name Server ページでは、Domain Name Server (DNS) の設定を行います。

表示／設定項目	説明
DNS Server 1	プライマリ DNS サーバの IP アドレスを設定します。
DNS Server 2	セカンダリ DNS サーバの IP アドレスを設定します。

• HTTP

HTTP ページでは、ポート番号の設定を行います。

表示／設定項目	説明
Port	HTTP インタフェースのポート番号を設定します。 デフォルト値：80

POINT

- ▶ Port の設定は変更してから約 10 秒後に有効になります。

• Telnet

Telnet ページでは、ポート番号および Drop Time の設定を行います。

表示／設定項目	説明
Port	Telnet のポート番号を設定します。 デフォルト値：3172
Drop Time	休止状態の Telnet 接続が自動的に切れるまでの時間 (秒) を設定します。 設定できる範囲は 30 ~ 65535 秒です。0 に設定すると自動切断機能が無効になります。 また、設定した値は CLI 上の「Management Agent Timeout(Sec)」と共通になります。

POINT

- ▶ Telnet のポート番号の変更は、マネジメントブレード再起動後に有効になります。

• NTP

NTP のページでは、設定の有効・無効と NTP サーバの設定を行います。

表示/設定項目	説明
NTP	NTP (Network Time Protocol) を使用して、マネジメントブレードの時刻合わせを行うかどうかを設定します。NTP を有効にすると、マネジメントブレードの時刻を 15 分ごとに NTP サーバと同期させます。 <ul style="list-style-type: none"> • enable : NTP を使用します。 • disable : NTP を使用しません。
Local NTP Server 1	プライマリ NTP サーバの IP アドレスを設定します。
Local NTP Server 2	セカンダリ NTP サーバの IP アドレスを設定します。
Sync Mode	時刻の同期モードを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • Sync Afterward NTP サーバの時刻が進んでいるときだけ、マネジメントブレードの時刻を合わせます。データベースなど時間関係に注意を要する用途で使用している場合には、このモードを選択してください。 • Sync Always マネジメントブレードの時刻を 15 分ごとに、NTP サーバと同期します。
The Lastest Sync Date/Time	マネジメントブレードと NTP サーバが時刻同期を行った最新の時刻を表示します。

重要

- ▶ 間違った IP アドレスを入力すると、時刻合わせが行われませんので注意してください。
- ▶ NTP を有効に設定した場合は、「The Lastest Sync Date/Time」で時刻の同期が行われているかどうか必ず確認してください。設定直後は、表示に時間がかかる場合がありますので、フレームの再読み込みボタンを数回押して表示を確認してください。

• SSL

SSL のページでは SSL の使用設定を行います。SSL バージョン 3 をサポートします。

表示/設定項目	説明
HTTP SSL	HTTP SSL を使用するかどうかを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • enable : HTTP SSL を使用します。 • disable : HTTP SSL を使用しません。
Telnet SSL	Telnet SSL を使用するかどうかを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • enable : Telnet SSL を使用します。 • disable : Telnet SSL を使用しません。

重要

- ▶ SSL を使用するためには、Web ブラウザや端末エミュレータで SSL バージョン 3 のみを有効にする必要があります。また、Web ブラウザで SSL バージョン 2 が有効になっている場合は無効に変更してください。

• Duplex Mode

使用しません。設定を変更しないでください。

● SNMP Interface

SNMP Interface ページでは、SNMP のコミュニティ名とトラップの送信先を設定します。

• SNMP Communities

SNMP Communities ページでは、SNMP のコミュニティ名の追加／削除を行います。設定されたコミュニティ名がある場合、表示されているコミュニティ名の横のチェックボックスにチェックを入れたあとに [Apply] をクリックすると、そのコミュニティ名を削除することができます。

▪ Community

新しい SNMP のコミュニティ名を入力して [New Community] をクリックすると、新しい SNMP のコミュニティ名が追加されます。最大 5 個までのコミュニティを登録できます。

POINT

- ▶ ServerViewやSystemcastWizardなどのSNMPで通信を行うアプリケーションを使用する場合には、コミュニティ名の設定が必須になります。通信可能なコミュニティ名を設定してください。

• SNMP Trap Destination

SNMP Trap Destination のページでは、SNMP トラップの送信先の追加と削除を行います。

▪ Destination [Delete]

SNMP トラップの送信先の削除を行います。

プルダウンから選択して [Delete] をクリックすると、SNMP トラップの送信先を削除できます。

▪ Destination [New Trap Destination または Apply]

SNMP トラップの送信先の追加を行います。

SNMP トラップの送信先アドレスを入力して [New Trap Destination] または [Apply] をクリックすると、新たな SNMP トラップの送信先を設定できます。IP アドレス（例：192.168.1.2）を入力します。最大 5 個までの送信先を登録できます。

● Console Redirection

Console Redirection ページでは、Telnet のフィルタリングの設定と KVM の切り替えを行います。

● Keyboard/Mouse/Video Switch to Local

Keyboard/Mouse/Video Switch for Local のページでは、シャーシに接続されるキーボード／ディスプレイ／マウスをどのスロットのサーバブレードが使用するかを切り替えます。

● Select KVM

搭載されているサーバブレードの一覧が表示されるので、シャーシに接続されるキーボード／ディスプレイ／マウスを使用したいサーバブレードを選んで [Apply] をクリックしてください。

● IP Filter For Telnet / IP Filter For HTTP / IP Filter For SNMP

接続を許可する IP のフィルタリングが行えます。最大 10 個の IP アドレスまで登録可能です。

ボックスの中には接続を許可している IP アドレスが表示されます。

● IP フィルタの削除

ボックスの中に登録されている IP アドレスを選択し、[Delete] をクリックすると登録されている IP アドレスを削除できます。

POINT

- ▶ IP Filter For Telnet と IP Filter For HTTP については、IP フィルタリングを行わない設定として、255.255.255.255 がデフォルトで登録されています。フィルタリングを行う場合は必要に応じて削除してください。

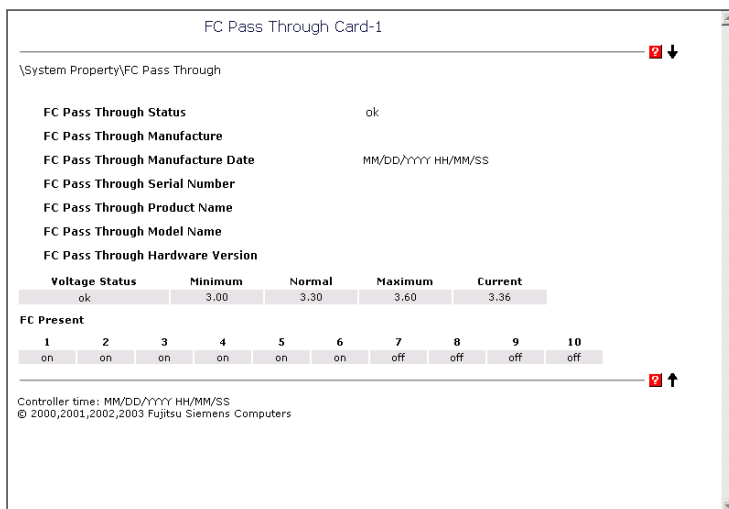
● New Allowed IP

IP フィルタの登録を行います。

接続を許可する IP を入力して [Add] をクリックすると登録できます。IP アドレス（例 . 192.168.1.2）を入力します。最大 10 個まで登録することができます。

● Fiber Channel

Fiber Channel ページでは、ファイバーチャネルパススルーブレードの状態を表示します。



● FC Pass Through Card-1 / FC Pass Through Card-2

■ FC Pass Through Status

ファイバーチャネルパススルーブレードの状態を表示します。

■ FC Pass Through Manufacture

ファイバーチャネルパススルーブレードの製造元を表示します。

■ FC Pass Through Manufacture Date

ファイバーチャネルパススルーブレードの製造年月日を表示します。

■ FC Pass Through Serial Number

ファイバーチャネルパススルーブレードのシリアル番号を示します。

■ FC Pass Through Product Name

ファイバーチャネルパススルーブレードの製品名を表示します。

■ FC Pass Through Model Name

ファイバーチャネルパススルーブレードのモデル名を表示します。

■ FC Pass Through Hardware Version

ファイバーチャネルパススルーブレードのハードウェア版数を表示します。

■ Voltage status

ファイバーチャネルパススルーブレードの電圧状態を表示します。また、現在の値を表示します。

■ FC Present

ファイバーチャネルモジュールの接続状態を表示します。

● System Information

System Information ページでは、SNMP エージェント情報の設定とマネジメントブレードの時刻/タイムゾーンの設定を行います。

• Agent Information

SNMP エージェント情報の設定を行います。

表示/設定項目	説明
Name	SNMP で装置を識別するために、マネジメントブレードのシステム名を設定します。 ServerView を使用する場合は設定してください (推奨)。
Location	SNMP での装置の管理作業のためにマネジメントブレードのロケーション (設置場所) を設定します。
Contact	SNMP での装置の管理作業のため連絡先 (コンタクト) を設定します。

• Daylight Saving Time

使用しません。設定を行わないでください。

• Controller Time

マネジメントブレードの時刻を設定します。

表示/設定項目	説明
(MM/DD/YYYY)	マネジメントブレードの日付を「月/日/西暦」で設定します (表示はアクセス時のものです)。
(HH:MM:SS)	マネジメントブレードの時刻を「時:分:秒」のように 24 時間形式で設定します (表示はアクセス時のものです)。

• Time Zone

マネジメントブレードのタイムゾーンを設定します。

表示/設定項目	説明
Time Zone	タイムゾーンを設定します。

● User Accounts

User Account ページでは、新しいユーザ名の作成、パスワードと権限の設定、既存のユーザアカウントを削除できます。管理者権限がないとユーザに関する操作は行えません。既存のユーザ名または [Add New User Account] をクリックすると、ユーザアカウントを変更または新規作成できる Accounts ページが表示されます。

POINT

- ▶ デフォルトで管理者権限をもつユーザ名「root」（パスワード「root」）が設定されています。ユーザ名「root」のパスワードは初期設定時に必ず変更してください。

Accounts ページでは次の設定を行います。

表示／設定項目	説明
Name	新しいユーザ名を設定します。
Password	パスワードを設定します。大文字・小文字は区別されます。
Confirm Password	確認のためパスワードを再度設定します。
Permissions	ユーザの権限を設定します。 [ファームウェア V1.33C の場合] <ul style="list-style-type: none"> • Read Only : 設定の読み取り専用です。 • Read Write : 設定の読み書きができます。 • Administrator : 管理者 (root) の権限を持ちます。 [ファームウェア V1.41 以降の場合] (注) <ul style="list-style-type: none"> • Read Only : 設定の読み取り専用です。 • Modify values : 設定の読み書きができます。 • Configure users : (マネジメントブレードの) ユーザアカウント管理ができます。 • Reset/Switch Off : リセットや電源切断ができます。 • Access EMP via CLI : CLI 経由で EMP へのアクセスができます。(未サポート)

注 : マネジメントブレードのファームウェアが V1.41 以降の場合、各ユーザグループ (User Group) のユーザ権限は、下表のとおりに付与されます (○ : 権限あり、- : 権限なし)。

User Group	Administrator	Power User	Guest User	Custom
Read Only	○	○	○	任意 (左記以外の組み合わせ設定時)
Modify values	○	-	-	
Configure users	○	-	-	
Reset/Switch Off	○	○	-	
Access EMP via CLI	○	-	-	

ユーザの削除に関しては「DeleteUserAccount」をチェックして [Apply] をクリックしてください。

POINT

- ▶ ユーザ「root」は削除できません。登録できるユーザ数は「root」を含めて 10 ユーザです。

● Deployment Table

搭載されている各ブレードに対して、次の Deployment パラメータを表示/設定します。Deployment パラメータは各種の Deployment ソフトや ServerView などで使用されます。プルダウンメニューから搭載されているサーバブレードを選択することによって、各サーバブレードに対する Deployment パラメータを設定します。

表示/設定項目	説明
Chassis ID	シャーシの ID を表示します。
Slot ID	サーバブレードが搭載されているスロット番号を表示します。
MAC Address 1 MAC Address 2	サーバブレードの LAN ポート 1 および LAN ポート 2 の MAC アドレスを表示します。
MAC Address 3 MAC Address 4	サーバブレードの LAN ポート 3 および LAN ポート 4 の MAC アドレスを表示します。(BX660 サーバブレードのみ)
IP Address 1 IP Address 2	サーバブレードの LAN ポート 1 および LAN ポート 2 の IP アドレスを表示します。
IP Address 3 IP Address 4	サーバブレードの LAN ポート 3 および LAN ポート 4 の IP アドレスを表示します。(BX660 サーバブレードのみ)
Subnet Mask 1 Subnet Mask 2	サーバブレードの LAN ポート 1 および LAN ポート 2 のサブネットマスクを表示します。
Subnet Mask 3 Subnet Mask 4	サーバブレードの LAN ポート 3 および LAN ポート 4 のサブネットマスクを表示します。(BX660 サーバブレードのみ)
Default Gateway 1 Default Gateway 2	サーバブレードの LAN ポート 1 および LAN ポート 2 のデフォルトゲートウェイを表示します。
Default Gateway 3 Default Gateway 4	サーバブレードの LAN ポート 3 および LAN ポート 4 のデフォルトゲートウェイを表示します。(BX660 サーバブレードのみ)
Hostname	ホストネームを設定します。
MasterImageReference	マスタイメージのディレクトリを設定します。
Status of Blade	サーバブレードの現在のステータスを表示します。
Lan Status of slot	LAN ステータスを設定します。
AutomaticRecovery	オートマテックリカバリ機能を有効にするかどうかを設定します。
Status of Cloning	クローニングのステータスを表示します。
OEM parameters 1-10	OEM パラメータを指定します。

重要

- ▶ 「IP Address」、「Subnet Mask」、「Default Gateway」、「Hostname」、「MasterImageReference」等は ServerView 等のソフトウェアにより自動的に設定されます。各種の Deployment ソフトの操作上変更が必要な場合以外は、変更しないでください。

● PPP and Modem Setting

使用しません。設定を行わないでください。

4.1.5 Management Blade グループ

搭載されているマネジメントブレードがすべて表示されます。

リンクをクリックすると、そのマネジメントブレードに対して次の情報が表示されます。

表示/設定項目	説明
Blade Information	ブレード情報
Play Role	マネジメントブレードの動作モードを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ master (マスタ) : マスタとしてシャーシ全体の管理を行っています。 ・ slave (スレーブ) : スレーブモードとして動作し、マスタのマネジメントブレードの監視を行っています。万一マスタのマネジメントブレードに故障が起きた場合はシャーシの管理を引き継ぎます。
Manufacture	製造元を表示します。
Produce Date	製造年月日を表示します。
Serial Number	シリアルナンバーを表示します。
Product Name	製品名を表示します。
Model Name	モデル名を表示します。
MAC Address	管理用の MAC アドレスを表示します。
Firmware Version	ファームウェアの版数を表示します。
Hardware Version	ハードウェアの版数を表示します。
Change Management Role to Slave	マネジメントブレードの動作モードを変更します。通常は使用しません (冗長構成でない場合は表示されません)。
Change Management Role to Master	

4.1.6 Switch Blade グループ

搭載されているスイッチブレードがすべて表示されます。

リンクをクリックすると、そのスイッチブレードに対する次の情報が表示されます。

重要

- ▶ スwitchブレードの表示情報を更新するには、[Reload] を押ししてください。ただし、スイッチブレードが起動していない場合や交換直後は、更新は行われません。

● Blade Info グループ

スイッチブレードについての各種情報を設定／表示します。

表示／設定項目	説明	
Located LED	スイッチブレードの保守ランプの表示を制御します。シャーシに搭載される複数のスイッチブレードを判別するために使用します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ blinking : スwitchブレードの保守ランプを点滅させます。 ・ off : スwitchブレードの保守ランプの制御を行いません。 	
Blade Information	ブレード情報	
Manufacture	製造元を表示します。	
Produce Date	製造年月日を表示します。	
Serial Number	シリアルナンバーを表示します。	
Product Name	製品名を表示します。	
Model Name	モデル名を表示します。	
Board Version	ボードの版数を表示します。	
Firmware Version	ファームウェアの版数を表示します。	
Network Setting	ネットワーク設定	
Mac Address	管理用の MAC アドレスを表示します。	
URL Address	スイッチブレードの Web UI の URL が表示されます。クリックするとそのページにジャンプします（ネットワークの配線と設定が必要です）。	
IP Address	スイッチブレードの管理用の IP アドレスを設定／表示します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ Current Value 現在の設定が表示されます。 ・ Setting Value 新しい設定を入力します。入力後、[Apply] をクリックすると、スイッチブレードに設定されます。
Subnet Mask	スイッチブレードのサブネットマスクを設定／表示します。	
Gateway Address	スイッチブレードのゲートウェイアドレスを設定／表示します。	
Apply	「IP Address」、「Subnet Mask」、「Gateway Address」で設定した値を、スイッチブレードに適用します。適用された情報は、スイッチブレードの起動用設定ファイルとして、「backupexi」というファイル名で保存されます。	
Reload	スイッチブレードの表示情報を更新します。	
Reboot Switch Blade または Reset Switch Blade	[Reboot] をクリックすると、確認画面が表示されます。そこで [YES] をクリックすると、スイッチブレードが再起動します。	

● Backup/restore グループ

スイッチブレードへの各種設定の退避や復元を行います。

• Backup/Restore

退避／復元の制御を行います。

– backup

選択したスイッチブレードの現在の設置情報を退避します。

– force-restore

退避されている設定情報を、現在搭載されているスイッチブレードに対してフォースリストアします。フォースリストアされた設定情報は、スイッチブレードの起動用設定ファイルとして、"backup_cfg" というファイル名で保存されます。

• Last Action

前回に実施した作業の内容を表示します。

• Last Done Backup file time

前回に退避を実施した時間を表示します。

• View Backup File

退避した設定情報を表示します。





• Auto Restore

退避した設定情報を、自動でスイッチブレードに対してリストアするかどうか設定します。

「enable」に設定すると、自動リストアは、新たにスイッチブレードがシャーシへ搭載された場合のみ行われます。リストアされた設定情報は、スイッチブレードの起動用設定ファイルとして、"backup_cfg" というファイル名で保存されます。

4.1.7 Server Blade グループ

Server Blade グループには、シャーシに搭載されているすべてのサーバブレードが表示されます。同時にサーバブレードの電源のステータスと KVM（キーボード／ディスプレイ／マウス）のセレクト位置がアイコンで表示されています。

アイコン	説明
	サーバブレードは電源 OFF の状態です。
	サーバブレードは電源 ON の状態です。
	このサーバブレードに KVM がセレクトされています、が電源 OFF の状態です。
	このサーバブレードに KVM がセレクトされており、電源 ON の状態です。

各サーバブレードには Recovery グループと Blade Info グループがあり、それらに属するページをクリックすると、そのサーバブレードに関するシステム設定ページが表示されます。以降の処理は、選択したサーバブレードに対して行われます。

● Recovery グループ

Recovery グループは、異常発生時のアクションや CMOS バックアップ／リストア設定、電源設定とスケジュール、ブートオプションの設定などを行います。

• ASR

▪ Software Watchdog

ServerView により設定します。

▪ Boot Watchdog

サーバブレードの OS 起動失敗時のアクションを設定します。サーバブレードの POST が終了してから ServerView エージェントが起動するまでの間隔を監視することにより、サーバブレードの OS 起動を監視します。サーバブレードの POST が終了してからタイムアウト時間 (Watchdog Time) の間に ServerView エージェントとの通信が開始されない場合、OS 起動失敗を検出し、アクションを実行します。アクションには次のオプションがあります。

表示／設定項目	説明
Boot Watchdog	OS 起動失敗について設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • enable : OS の起動を監視します。 • disable : OS の起動を監視しません。
Watchdog Time	設定された時間に従い OS 起動失敗を監視します。 設定値は 2 ~ 100 分の間で段階的に設定可能です。
Watchdog Action	OS の起動が失敗した時のアクションを設定します。 [ファームウェア V1.33C の場合] <ul style="list-style-type: none"> • reboot : サーバブレードを再起動します。 • off : サーバブレードの電源を切ります。 • power-cycle : サーバブレードの電源を切ったあと、再度電源を入れます。 [ファームウェア V1.41 以降の場合] <ul style="list-style-type: none"> • no-action : そのままの状態でもしませぬ。 • hard reset : サーバブレードを再起動します。 • off : サーバブレードの電源を切ります。(BX660 サーバブレードでは未サポート) • graceful shutdown and power-cycle : サーバブレードをシャットダウンし、いったん電源を切ったあと、再度電源を入れます。
Maximum Restart Retries	OS 起動に失敗した場合に何回リトライするか設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 : リトライしません。 • 1 ~ 7 回 : 設定した回数リトライします。

重要

- ▶ サーバブレードに ServerView をインストールしていない場合は、必ず「Disabled」に設定してください。「Enabled」に設定した場合、サーバブレードが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。
- ▶ サーバブレードに ServerView をインストールしている場合にも、ServerStart CD-ROM やハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを入れてシステムを起動する場合は、必ず「OS ブート監視」機能を無効に設定してください（初期設定は無効です）。
「OS ブート監視」機能を有効にしたままでシステムを起動すると、本サーバブレードが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。
「OS ブート監視」機能を有効にして運用している場合は、運用を再開する前に、再度本機能を有効にしてください。
- ▶ 本機能の設定時には『ServerView ユーザーズガイド』を参照し、本機能の仕様と運用方法を十分ご理解の上、正しく設定してください。

POINT

- ▶ 「OS ブート監視」機能の有効／無効は ServerView から設定できます。

- **Auto Configuration**

- **System CMOS Configuration Backup/Restore**

サーバブレードの BIOS セットアップユーティリティによって設定された CMOS 情報の退避／復元処理を行います。

サーバブレードの電源を入れたあと、POST が終了するまで操作できません。その場合は「Not ready to backup/restore, now!!」が表示されます。

重要

- ▶ 次のいずれかの操作を行った場合、必ず BIOS 情報の退避を行ってください。
 - ・ 本サーバブレードを初めて使用する場合
 - ・ BIOS セットアップユーティリティによって情報変更を行った場合
 - ・ 本サーバブレードのハードウェア構成を変更した場合、具体的には、メモリの増減・変更があった場合など
 - ・ BIOS 版数を更新した場合
- ▶ BIOS セットアップユーティリティによって設定される情報のみを退避／復元することができます。オンボード SCSI アレイコントローラの BIOS 情報については退避／復元できません。
- ▶ 退避／復元の結果はマネジメントブレードのイベントログに記録されます。

表示／設定項目	説明
CMOS Backup	BIOS の CMOS 設定を退避します。

・ **CMOS Restore**

BIOS の CMOS 設定を復元します。

BIOS 情報を有効にするためにはサーバブレードの再起動が必要です。必要に応じて再起動してください。

 **重要**

▶ CMOS 設定ファイルを退避したサーバブレードと復元先のサーバブレードのタイプが異なる場合、および BIOS 版数が異なる場合は、この機能は使用できません。

表示／設定項目	説明
CMOS File	マネジメントブレードに退避されている CMOS 設定ファイルを表示します。「スロット番号：MAC アドレス：退避した日付：BIOS 版数」がファイル名として付けられています。復元したい設定ファイルを選択してください。
Restore Policy	サーバブレードに BIOS の CMOS 設定を復元する場合の条件（ポリシー）を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ smart-restore：復元対象のサーバブレードと CMOS 設定ファイルを退避したサーバブレードの MAC アドレスとスロット番号が異なる場合は、復元の処理を中止します。 ・ force-restore：復元対象のサーバブレードと CMOS 設定ファイルを退避したサーバブレードが異なる場合でも、復元を強制的に行います。 重要： <ul style="list-style-type: none"> ▶ CMOS 設定ファイルを退避したサーバブレードと復元先のサーバブレードのモデルが異なる場合、この機能は使用できません。

・ **Power Control**

・ **Power Status / Power Switch**

サーバブレードの電源の制御を行います。使用する場合は「6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項」（→ P.135）を参照してください。

[ファームウェア V1.33C の場合]

—on

サーバブレードの電源を入れます。

—off

サーバブレード上で動作する ServerView エージェントに OS のシャットダウン指示を送り、電源を切ります。

 **重要**

▶ この機能を使用する場合は、サーバブレードに対して各種の対応が必要になります。詳細は「6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項」（→ P.135）を参照してください。対応していないサーバブレードに対してこの操作を行った場合には、ACPI シャットダウンや電源切断など予期しない動作をするおそれがありますので、選択しないでください。

—power-cycle

サーバブレードの電源を切ったあと、再び電源を入れます。

—reset

サーバブレードを再起動します。

-NMI

通常は選択しないでください。

-force-off

サーバブレードの電源を強制的に切ります。

 **重要**

- ▶ サーバブレードの電源切断を指示したあと、電源 ON を指示する場合はサーバブレードの電源が確実に切れたことを確認してから行ってください。

[ファームウェア V1.41 以降の場合]

-Power on

サーバブレードの電源を入れます。

-graceful shutdown and off

サーバブレード上で動作する ServerView エージェントに OS のシャットダウン指示を送り、電源を切ります。

-graceful shutdown and power-cycle

サーバブレード上で動作する ServerView エージェントに OS のシャットダウン指示を送り、いったん電源を切ったあと、再度電源を入れます。

 **重要**

- ▶ graceful シャットダウン機能を使用する場合は、サーバブレードに対して各種の対応が必要になります。詳細は「6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項」(→ P.135) を参照してください。対応していないサーバブレードに対してこの操作を行った場合には、ACPI シャットダウンや電源切断など予期しない動作をするおそれがありますので、選択しないでください。

-hard reset

サーバブレードを再起動します。

-NMI

通常は選択しないでください。

-Hard Power off

サーバブレードの電源を強制的に切ります。

 **重要**

- ▶ サーバブレードの電源切断を指示したあと、電源 ON を指示する場合はサーバブレードの電源が確実に切れたことを確認してから行ってください。

▪ Power On/Off

サーバブレードのスケジュール運転に関する設定をします。スケジュールの指示はマネジメントブレードから行われます。

スケジュール運転を毎日行う場合には「Everyday」の「On Time」、「Off Time」を設定して [Everyday] をクリックしてください。

表示/設定項目	説明
On Time	<ul style="list-style-type: none"> hour : minute : 各曜日に対してサーバブレードの電源を入れる時刻を「時：分」で設定します。時間は 24 時間形式で入力します。 disabled : 電源を入れる時刻を設定しません。
Off Time	<ul style="list-style-type: none"> hour : minute : 各曜日に対してサーバブレードの電源を切る時刻を「時：分」で設定します。時間は 24 時間形式で入力します。 disabled : 電源を切る時刻を設定しません。 <p>補足 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ サーバブレードの電源切断は、マネジメントブレードから「off」を指示することにより行われるため、サーバブレードに対して各種の対応が必要になります。使用する場合は「6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項」(→P.117)を参照してください。対応していないサーバブレードに対してこの操作を行った場合には、ACPI シャットダウンや電源切断など予期しない動作をするおそれがありますので、設定を行わないでください。

▪ Power Setting

「Off Time」でサーバブレードに対する「off」の指示が失敗した場合に、強制的に電源を切る動作を設定します。次のチェックボックスにチェックすると、「off」に失敗してから指定した時間が経過すると強制的にサーバブレードの電源を切ります。

When power off fail, force power off after X minutes. (X は 1 ～ 7 分が選択できます)

▪ Boot Option

サーバブレードのブートオーダーの変更を行います。

▪ Boot Option Selected

OS ブート時のブート方法を設定します。

—normal

サーバブレードのブートオーダーを、BIOS に設定されているデフォルトの設定にします。

—pxe-lan-1 / pxe-lan-2

サーバブレードのブートオーダーの先頭を、LAN ポート 1 または LAN ポート 2 を使用して、PXE (Preboot eXecution Environment) でブートするように変更します。

—pxe-lan-3 / pxe-lan-4 (BX660 サーバブレードのみ)

サーバブレードのブートオーダーの先頭を、LAN ポート 3 または LAN ポート 4 を使用して、PXE (Preboot eXecution Environment) でブートするように変更します。

—add-in-pci-lan-1 / add-in-pci-lan-2 (BX600 サーバブレードのみ)

サーバブレードのブートオーダーの先頭を、拡張カードスロットモジュールに搭載した LAN カードのポート 1 またはポート 2 を使用して、PXE Preboot eXecution Environment でブートするように変更します。

・ Boot CPU Operating

サーバブレードに搭載されている CPU の動作モードを表示します。

ー Performance

サーバブレードに搭載されている CPU は Performance モードで動作しています。

ー not-ready

CPU は動作していません。

● Blade Info グループ

Blade Info グループは、シャーシに搭載されている各サーバブレードに対して、システムボード、CPU、メモリ、電圧の各情報を表示します。

・ Blade Info

サーバブレードの各種情報の表示や電源ランプの制御を行います。

表示/設定項目	説明
Blade Status	サーバブレードのステータスを表示します。
Server LED	サーバブレード判別機能として、サーバブレードの電源ランプの表示を制御することができます。シャーシに搭載される複数のサーバブレードを判別するために使用します。 ・ blinking : サーバブレードの電源ランプを点滅させます。 ・ off : サーバブレード電源ランプの制御を行いません。
OS Type	ServerView エージェントが OS にインストールされている場合、OS のタイプを表示します。
OS Version	ServerView エージェントが OS にインストールされている場合、OS のバージョンを表示します。
Model	モデル名を表示します。
Serial Number	シリアルナンバーを表示します。
BIOS Version	BIOS の版数を表示します。
Firmware Version	BMC (Baseboard Management Controller : ベースボード上で温度や電圧などのセンサ等を管理しているマイクロコントローラ) のファーム版数を表示します。
KME Version (ファームウェア V1.41 以降)	KME (キーボードマウスエミュレータ) の版数を表示します。
Hardware Version	ハードウェアの版数を表示します。
Product Name	プロダクトネームを表示します。
Product Version	プロダクト版数を表示します。
Manufacture Date	製造年月日を表示します。
PCI Add-In Card	PCI Add-In Card の状態を表示します。
FC Daughter Card または Daughter Card	サーバブレードに搭載する I/O ドータカード (ファイバーチャネルドータカード等) の状態を表示します。

- **Processors**

CPU の各種情報を表示します。

表示/設定項目	説明
No	CPU 番号を表示します。
Status (ファームウェア V1.41 以降)	CPU のステータスを表示します。
Type	CPU のタイプを表示します。
Frequency	CPU の動作周波数を表示します。
External Clock	CPU バスの動作周波数を表示します。
CPU Step	CPU のステップングを表示します。
Socket	CPU のソケット位置を表示します。

- **Network Interface Card**

LAN インタフェースに関する各種情報を表示します。

表示/設定項目	説明
No	LAN ポートの番号を表示します。
Mac Address	MAC アドレスを表示します。
IP Address	ServerView エージェントが OS にインストールされている場合、IP アドレスを表示します。

- **Memory Modules**

メモリに関する各種情報を表示します。

表示/設定項目	説明
Memory Module No	メモリモジュールの番号を表示します。
Status	メモリのステータスを表示します。
Module Size	メモリの容量を表示します。
Type	メモリの種類を表示します。
Speed	メモリバスのスピードを表示します。
Socket Designation	メモリが搭載されているソケット位置を表示します。

- **Voltage**

サーバブレードのボード上の各種電圧と電圧しきい値の設定を表示します。

表示/設定項目	説明
No	電圧センサの番号を表示します。
Status	電圧センサの状態を表示します。
Minimum	電圧の危険下限しきい値を表示します。
Maximum	電圧の危険上限しきい値を表示します。
Nominal	電圧の公称値を表示します。
Current	電圧の現在の値を表示します。
Designation	測定している電圧の種類を表示します。

- **Temperature**

サーバブレードのボード上の各種温度と温度しきい値の設定を表示します。

表示／設定項目	説明
No	温度センサの番号を表示します。
Status	温度センサの状態を表示します。
Designation	温度センサの測定場所を表示します。
Temperature	温度の現在の値を表示します。
Upper Warning Level	温度警告の上限値を表示します。
Upper Critical Level	温度異常の上限値を表示します。
Lower Warning Level	温度警告の下限值を表示します。
Lower Critical Level	温度異常の下限值を表示します。

第 5 章

CLI について

この章では、マネジメントブレードでブレードサーバシステムを管理／運用するための CLI（コマンドラインインタフェース）について説明しています。

5.1 CLI の使用方法	62
5.2 各画面の基本操作	64
5.3 マネジメントブレードの起動およびログオン	65
5.4 マネジメントブレードの各操作方法	67

5.1 CLI の使用方法

ここでは、シリアルインタフェースまたは LAN 経由の Telnet を使用した CLI の使用方法について説明します。

CLI を LAN 経由の Telnet を用いて使用する場合は、次のソフトウェアを使用することを推奨します。

- ・ RemoteControlService V3.06 以降

5.1.1 シリアルインタフェースを使用する

- 1 マネジメントブレードと管理端末を RS-232C クロスケーブルで接続します。
→ 「■ シリアルインタフェースの設定」 (P.18)

重要

- ▶ マスタモードで動作しているマネジメントブレードに対して接続してください。スレーブモードのマネジメントブレードからはアクセスできません。マネジメントブレードの動作モードはマネジメントブレードマスタ表示ランプで確認してください (→ 「1.2 名称と働き」 (P.11))。

- 2 管理端末でターミナルソフトウェアを起動して次のポート設定を行います。

設定項目	設定値
ビット/秒	115200
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	なし

- 3 管理端末でターミナルソフトウェアを [VT100] の設定にします。
設定方法については、お使いのターミナルソフトウェアのマニュアルを参照してください。

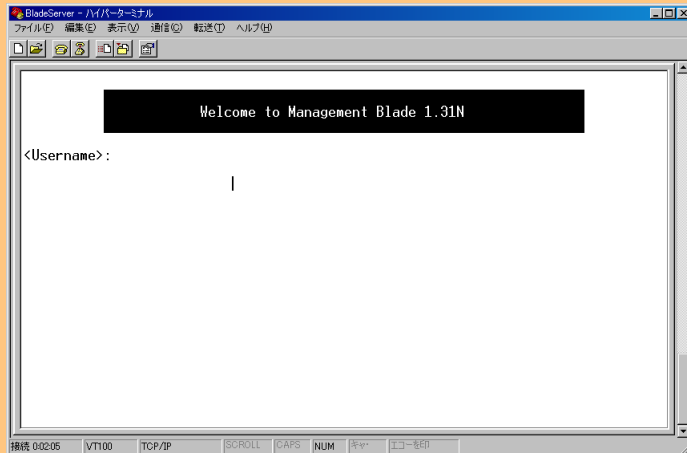
5.2 各画面の基本操作

CLIの各ページでは、「Enter selection:」のあとに画面に表示されている数字を入力して【Enter】キーを押すと、情報の表示や設定、ページ間の移動が行えます。

- 設定値の入力は、「-->>」の記号のあとに、画面に表示される指示に従って数字や文字列を入力してください。
- 画面に <effect after reboot> の表示がある場合は、設定の変更後にマネジメントブレードの再起動が必要になります。
- (-) で表示されている項目は情報の表示のみで設定できません。
- 入力した文字列は、同じ入力画面で【Space】キーを押したあと【Enter】キーを押すと削除できます。
- 時刻を24時間形式で入力する場合は、たとえば午前6時30分は「06:30」、午後6時30分は「18:30」と入力します。

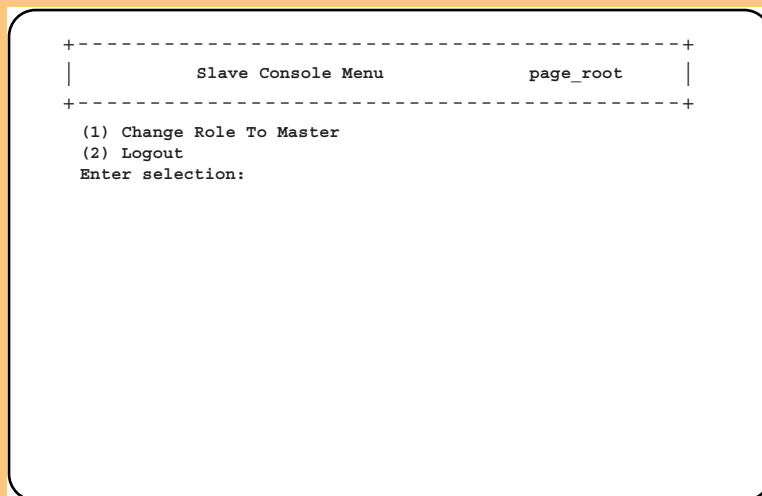
 重要

- ▶ シリアルインタフェースをスレーブモードで動作しているマネジメントブレードに接続すると [Welcome to slave console menu] が表示され、次のスレーブモード用のログオン画面が表示されます。



スレーブモードのマネジメントブレードからは設定は行えませんので、次のどちらかの方法でマスターモードのログオン画面を表示させてください。

- ・ シリアルインタフェースの接続先を、マスターモードで動作しているマネジメントブレードに変更します。
- ・ スレーブモード用のログオン画面でユーザ名とパスワードを入力してログオンすると、次の画面が表示されます。



ここで「1. Change Role To Master」を選択して、接続しているマネジメントブレードの動作モードをスレーブモードからマスターモードに変更します。

5.4 マネジメントブレードの各操作方法

CLI の各種操作方法を解説します。項目については Web UI と大部分が共通なので、項目の詳細は、「第 4 章 Web UI について」(→ P.27) も併せて参照してください。

5.4.1 コンソールメニュー

ログオンが終了すると、最初にトップ ページとしてコンソールメニューが表示されます。ここでは、コンソールメニューについて説明します。

```

+-----+
|           Console Menu           Page_root           |
+-----+
(1) Management Agent
(2) Emergency Management Port
(3) Console Redirection
(4) TFTP update
(5) Logout
(6) Reboot Management Blade
(7) System Information Dump
(8) Command Line Interface
Enter selection:

```

メニュー	説明
1. Management Agent	ブレードサーバシステムの各種情報表示や設定を行います。 → 「5.4.2 Management Agent」(P.68)
2. Emergency Management Port	通常は使用しません。
3. Console Redirection	サーバブレード、スイッチブレードのコンソールリダイレクションに使用します。 → 「5.4.3 Console Redirection」(P.127)
4. TFTP update	通常は使用しません。
5. Logout	ログアウトします。 → 「5.4.4 Logout」(P.130)
6. Reboot Management Blade	マネジメントブレードを再起動します。 → 「5.4.5 Reboot」(P.130)
7. System Information Dump	システムとサーバのコンフィグレーションや、マネジメントブレードとサーバブレードのログを表示します。 → 「5.4.6 System Information Dump」(P.131)
8. Command Line Interface (ファームウェア V1.41 以降)	通常は使用しません。 万一誤って選択した場合には、"Script>" プロンプトのあとに exit と入力し、コンソールメニューに戻ります。

5.4.2 Management Agent

ブレードサーバシステムの各種情報表示や設定を行います。

```

+-----+
|           Management Agent           page_1           |
+-----+

(1) Management Agent Information
(2) Management Blade
(3) System Information
(4) Server Blade
(5) Switch Blade
(6) Username And Password
(7) Blue Screen
(8) Event Log
(9) Set System Default
(10) Server Blade CMOS Backup/Restore
(11) Switch Blade Configuration Backup/Restore
(12) Deployment Parameter
(13) Power Consumption
(14) PPP and Modem Setting
(15) Fiber Channel
(16) PHY Module
Enter selection or type (0) to quit:

```

メニュー	説明
1. Management Agent Information	マネジメントブレードで動作している HTTP や SNMP などの各種エージェントの設定を行います。 → 「■ Management Agent Information (1_1)」 (P.69)
2. Management Blade	マネジメントブレードの各種情報を表示します。 → 「■ Management Blade (1_2)」 (P.79)
3. System Information	システム情報の確認と設定を行います。 → 「■ System Information (1_3)」 (P.80)
4. Server Blade	サーバブレードの各種設定と情報表示を行います。 → 「■ Server Blade (1_4)」 (P.95)
5. Switch Blade	スイッチブレードの各種情報表示を行います。 → 「■ Switch Blade (1_5)」 (P.110)
6. Username And Password	ユーザの追加やパスワードの設定を行います。 → 「■ Username And Password (1_6)」 (P.112)
7. Blue Screen	通常は使用しません。
8. Event Log	各種イベントログの表示やクリアを行います。 → 「■ Event Log (1_8)」 (P.114)
9. Set System Default	マネジメントブレードの設定をデフォルト値に戻します。 → 「■ Set System Default (1_9)」 (P.117)
10. Server Blade CMOS Backup/Restore	サーバブレードの BIOS セットアップユーティリティによって設定された情報の、退避や復元処理を行います。 → 「■ Server CMOS Backup/Restore (1_10)」 (P.118)
11. Switch Blade Configuration Backup/Restore	スイッチブレードへの各種設定の退避や復元を行います。 → 「■ Switch Blade Configuration Backup/Restore (1_11)」 (P.121)
12. Deployment Parameter	デプロイメント用のパラメータの各種設定と表示を行います。 → 「■ Deployment Parameter (1_12)」 (P.123)
13. Power Consumption	通常は使用しません。

メニュー	説明
14. PPP and Modem Setting	通常は使用しません。
15. Fiber Channel	ファイバーチャネルパススルーブレードの状態を表示します。 → 「■ Fiber Channel (1_15)」 (P.125)
16. PHY Module (ファームウェア V1.41 以降)	LAN パススルーブレードの状態を表示します (サポート予定)。

■ Management Agent Information (1_1)

マネジメントブレードで動作する各種エージェントの設定を行います。

```

+-----+
|           Agent Information           page_1_1           |
+-----+
(1) Set Management Agent IP Address      : 192.168.1.1
(2) Set Management Agent Network Mask    : 255.255.255.0
(3) Set Management Agent Gateway         : 0.0.0.0
(4) Set Management Agent Default Route   :
(5) Set Management Agent DHCP Configure  : disable
(6) Set Time Zone                        : (GMT+9)   Osaka, Sapporo, Tokyo
(7) Set Management Agent Date Time       : MM/DD/YYYY HH:MM:SS
(8) Set Management Agent Timeout(Sec)    : 900
(9) Agent System Info
(-) Management Agent Administrative URL   : http://192.168.1.1:80/
(11) Automatically Adjust Clock for Daylight Saving Changes : disable
(12) Agent HTTP
(13) Agent SNMP
(14) Agent Telnet
(15) Agent DNS
(16) Agent SMTP
(17) Agent NTP
(18) Agent NIC Duplex Mode
(19) Change Management Role To Slave
Enter selection or type (0) to quit:

```

□ : 設定項目

項目	設定値	内容
1. Set Management Agent IP Address	(設定必須)	マネジメントブレードの IP アドレスの値を設定します。設定は、マネジメントブレードの再起動後に有効になります。
2. Set Management Agent Network Mask	(設定必須)	マネジメントブレードのサブネットマスクの値を設定します。設定は、マネジメントブレードの再起動後に有効になります。
3. Set Management Agent Gateway	—	マネジメントブレードのゲートウェイの値を設定します。設定は、マネジメントブレードの再起動後に有効になります。
4. Set Management Agent Default Route	—	通常は使用しません。LAN に設定してください。
5. Set Management Agent DHCP Configure	<input type="checkbox"/> enable <input type="checkbox"/> disable	マネジメントブレードの IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを DHCP サーバから設定するかどうかを設定します。設定は、マネジメントブレードの再起動後に有効になります。
6. Set Time Zone	—	マネジメントブレードのタイムゾーンを設定します。タイムゾーンテーブルをサポートします。

項目	設定値	内容
7. Set Management Agent Date Time	—	マネジメントブレードの時刻を設定します。<月/日/西暦時:分:秒>の形式で入力します。時刻は24時間形式で入力します。
8. Set Management Agent Timeout (Sec)	<input type="checkbox"/> 30 ~ 65535	コンソールログオンのタイムアウト値を設定します。操作が設定された秒数の間に行われなかった場合に、自動的にログオン画面に戻ります。設定値を0に設定すると、この自動切断機能は無効になります。また、設定した値はWeb UI上のTelnetの「DropTime」と共通になります。
9. Agent System Info	—	SNMPにおけるシステム名、設置場所、連絡先を設定します。
Management Agent Administrative URL	—	Web UIにアクセスするURLを表示します。
11. Automatically Adjust Clock for Daylight Saving Changes	—	サポートしていません。設定を行わないでください。
12. Agent HTTP	—	マネジメントブレード上のHTTPエージェントの設定を行います。 →「●12. Agent HTTP (1_1_12)」(P.71)
13. Agent SNMP	—	マネジメントブレード上のSNMPエージェントの設定を行います。 →「●13. Agent SNMP (1_1_13)」(P.72)
14. Agent Telnet	—	マネジメントブレード上のTelnetエージェントの設定を行います。 →「●14. Agent Telnet (1_1_14)」(P.74)
15. Agent DNS	—	マネジメントブレードのDNSの設定を行います。 →「●15. Agent DNS (1_1_15)」(P.75)
16. Agent SMTP	—	マネジメントブレードのSMTP機能(アラームハンドラ)の設定を行います。 →「●16. Agent SMTP (1_1_16)」(P.76)
17. Agent NTP	—	マネジメントブレードのNTP(Network Time Protocol)の設定を行います。 →「●17. Agent NTP (1_1_17)」(P.77)
18. Agent NIC Duplex Mode	—	使用しません。設定を変更しないでください。
19. Change Management Role To Slave	—	マネジメントブレードが冗長構成のときに、動作モードを強制的にスレーブモードに変更します。通常は使用しないでください。

● 12. Agent HTTP (1_1_12)

マネジメントブレード上の HTTP エージェントの設定を行います。

```

+-----+
|               Agent HTTP       page_1_1_12               |
+-----+

(1) Set HTTP Enable      : enable
(2) Set HTTP Port       : 80
(3) Set HTTP SSL Enable  : disable
(4) HTTP IP Filter Table
Enter selection or type (0) to quit:

```

□ : 設定項目

項目	設定値	内容
1. Set HTTP Enable	<input type="checkbox"/> enable <input type="checkbox"/> disable	HTTP サービスの有効/無効を設定します。設定は、マネジメントブレードの再起動後に有効になります。HTTP サービスを無効にした場合は Web UI は使用できません。
2. Set HTTP Port	—	HTTP のポート番号を設定します。この設定は、10 秒後に有効になります。
3. Set HTTP SSL Enable	<input type="checkbox"/> enable <input type="checkbox"/> disable	HTTP SSL を使用するかどうかを設定します。
	重要 : ▶ SSL を使用するためには、Web ブラウザで SSL バージョン 3 のみを有効にする必要があります。また、Web ブラウザで SSL バージョン 2 が有効になっている場合は、無効に変更してください。	
4. HTTP IP Filter Table	—	HTTP による接続を許可する IP の設定を行います。HTTP を許可する IP は、最大 10 個まで登録できます。ご購入時設定値は、IP のフィルタリングを行いません。IP フィルタリングを行う場合は、削除してください。

● 13. Agent SNMP (1_1_13)

マネジメントプレード上の SNMP エージェントの設定を行います。

```

+-----+
|           Agent SNMP           page_1_1_13           |
+-----+

(1) Set Agent SNMP Enable : enable
(2) Set Agent SNMP Security Enable : disable
(3) Agent SNMP Trap Table
(4) Agent SNMP Community String Table
(5) SNMP IP Filter Table
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

□ : 設定項目

項目	設定値	内容
1. Set Agent SNMP Enable	<input type="checkbox"/> enable <input type="checkbox"/> disable	SNMP サービスの有効／無効を設定します。 ServerView などの SNMP で通信するアプリケーションを使用する場合は、有効に設定してください。
2. Set Agent SNMP Security Enable	<input type="checkbox"/> enable <input type="checkbox"/> disable	ServerView で [システム識別灯表示ボタン] を使用した場合にユーザ名とパスワードの入力を求めるかどうかを設定します。
3. Agent SNMP Trap Table	—	SNMP トラップの送信先のテーブルの設定／表示を行います。 → 「3. Agent SNMP Trap Table (1_1_13_3)」 (P.73)
4. Agent SNMP Community String Table	—	SNMP コミュニティ名の設定／表示を行います。 → 「4. Agent SNMP Community String Table (1_1_13_4)」 (P.73)
5. SNMP IP Filter Table	—	SNMP による接続を許可する IP の設定を行います。 → 「5. SNMP IP Filter Table (1_1_13_5)」 (P.74)

- **3. Agent SNMP Trap Table (1_1_13_3)**

SNMP トラップの送信先のテーブルの設定／表示を行います。

```

+-----+
|           Agent SNMP Trap Table           page_1_1_13_3           |
+-----+

(1) Agent SNMP Trap 1 : 0.0.0.0
(2) Agent SNMP Trap 2 : 0.0.0.0
(3) Agent SNMP Trap 3 : 0.0.0.0
(4) Agent SNMP Trap 4 : 0.0.0.0
(5) Agent SNMP Trap 5 : 0.0.0.0
Enter selection or type (0) to quit:

```

各 SNMP トラップの数字を選択すると、SNMP トラップの送信先の IP アドレスを設定できます。

また、各 IP アドレスに対して「SNMP Trap Community String」を設定することができます。

- **4. Agent SNMP Community String Table (1_1_13_4)**

SNMP コミュニティ名の設定／表示を行います。

```

+-----+
|           Agent SNMP Community String           page_1_1_13_4           |
+-----+

(1) SNMP Community String 1 :
(2) SNMP Community String 2 :
(3) SNMP Community String 3 :
(4) SNMP Community String 4 :
(5) SNMP Community String 5 :
Enter selection or type (0) to quit:

```

POINT

- ▶ ServerView や SystemcastWizard などの SNMP で通信を行うアプリケーションを使用する場合には、コミュニティ名の設定が必要です。通信可能なコミュニティ名を設定してください。

● **5. SNMP IP Filter Table (1_1_13_5)**

SNMP による接続を許可する IP の設定を行います。

SNMP を許可する IP は、最大 10 個まで登録できます。

ご購入時に登録されている 255.255.255.255 は、IP のフィルタリングを行いません。IP フィルタリングを行う場合は、削除してください。

```

+-----+
|          SNMP IP Filter Table          page_1_1_13_5          |
+-----+

(1) SNMP IP Filter 1 : 255.255.255.255
(2) SNMP IP Filter 2 : 0.0.0.0
(3) SNMP IP Filter 3 : 0.0.0.0
(4) SNMP IP Filter 4 : 0.0.0.0
(5) SNMP IP Filter 5 : 0.0.0.0
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

● **14. Agent Telnet (1_1_14)**

マネジメントブレード上の Telnet エージェントの設定を行います。

```

+-----+
|          Agent TELNET          page_1_1_14          |
+-----+

(1) Set Telnet Enable      : enable
(2) Set Telnet Port       : 3172
(3) Telnet IP Filter Table
(4) Telnet Disconnection
(5) Set telnet SSL Enable : disable
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

: 設定項目

項目	設定値	内容
1. Set Telnet Enable	<input type="checkbox"/> enable <input type="checkbox"/> disable	Telnet サービスの有効/無効を設定します。設定は、マネジメントブレードの再起動後に有効になります。
2. Set Telnet Port	—	Telnet のポート番号を設定します。設定は、マネジメントブレードの再起動後に有効になります。
3. Telnet IP Filter Table	—	Telnet サービスを許可する IP の設定を行います。 → 「3. Telnet IP Filter Table (1_1_14_3)」 (P.75)

項目	設定値	内容
4. Telnet Disconnection	—	Telnet 接続しているコネクションを強制的に切ります。操作は、画面の指示に従って行ってください。
5. Set telnet SSL Enable	<input type="checkbox"/> enable <input type="checkbox"/> disable	Telnet SSL を使用するかどうかを設定します。
	重要： ▶ SSL を使用するためには、Telnet のクライアントソフトで SSL バージョン 3 のみを有効にする必要があります。	

● 3. Telnet IP Filter Table (1_1_14_3)

Telnet サービスを許可する IP の設定を行います。

Telnet を許可する IP は、最大 10 個まで登録できます。

ご購入時に登録されている 255.255.255.255 は、IP のフィルタリングを行いません。IP フィルタリングを行う場合は、削除してください。

```

+-----+
|          Telnet IP Filter Table          page_1_1_14_3          |
+-----+

(1) Telnet IP Filter 1 : 255.255.255.255
(2) Telnet IP Filter 2 : 0.0.0.0
(3) Telnet IP Filter 3 : 0.0.0.0
(4) Telnet IP Filter 4 : 0.0.0.0
(5) Telnet IP Filter 5 : 0.0.0.0
(6) Telnet IP Filter 6 : 0.0.0.0
(7) Telnet IP Filter 7 : 0.0.0.0
(8) Telnet IP Filter 8 : 0.0.0.0
(9) Telnet IP Filter 9 : 0.0.0.0
(10)Telnet IP Filter 10: 0.0.0.0
Enter selection or type (0) to quit:

```

● 15. Agent DNS (1_1_15)

マネジメントブレードの DNS の設定を行います。

```

+-----+
|          Agent Network DNS          page_1_1_15          |
+-----+

(1) Set DNS IP Address_1 : 0.0.0.0
(2) Set DNS IP Address_2 : 0.0.0.0
Enter selection or type (0) to quit:

```

項目	内容
1. Set DNS IP Address_1	プライマリ DNS サーバの IP アドレスを入力します。
2. Set DNS IP Address_2	セカンダリ DNS サーバの IP アドレスを入力します。

● **16. Agent SMTP (1_1_16)**

マネジメントブレードの SMTP 機能 (アラームハンドラ) の設定を行います。

```

+-----+
|                Agent SMTP                page_1_1_16                |
+-----+

(1) Set Agent SMTP ENABLE                  : enable
(2) Set Agent SMTP Relay Server Domain Name :
(3) Set Agent SMTP Sender E-mail Address   :
(4) Agent SMTP User Table
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

□ : 設定項目

項目	設定値	内容
1. Set Agent SMTP ENABLE	<input type="checkbox"/> enable <input type="checkbox"/> disable	SMTP を使用してイベントを電子メールで送付するかどうか設定します。設定は再起動後に有効になります。
2. Set Agent SMTP Relay Server Domain Name	—	SMTP サーバの IP アドレスを入力します。
3. Set Agent SMTP Sender E-mail Address	—	送信側の電子メールアドレスを入力します。
4. Agent SMTP User Table	—	イベントを受信するユーザの電子メールアドレスを入力します。 → 「4. Agent SMTP User Table (1_1_16_4)」 (P.77)

● 4. Agent SMTP User Table (1_1_16_4)

イベントを受信するユーザの電子メールアドレスを入力します。

```

+-----+
|           Agent SMTP User Table           page_1_1_16_4           |
+-----+

(1) Agent SMTP User 1 :
(2) Agent SMTP User 2 :
(3) Agent SMTP User 3 :
(4) Agent SMTP User 4 :
(5) Agent SMTP User 5 :
Enter selection or type (0) to quit:

```

項目	内容
Agent SMTP User 1 ~ Agent SMTP User 5	ユーザの電子メールアドレスを入力します。

● 17. Agent NTP (1_1_17)

マネジメントブレードの NTP (Network Time Protocol) の設定を行います。

```

+-----+
|           Agent NTP           page_1_1_17           |
+-----+

(1) Set NTP ENABLE           : disable
(2) NTP Server IP
(-) The Lastest Sync Date/Time : Not Ready
(4) Sync Mode                 : Sync Afterward
Enter selection or type (0) to quit:

```

□ : 設定項目

項目	設定値	内容
1. Set NTP ENABLE	<input type="checkbox"/> enable <input type="checkbox"/> disable	NTP の有効/無効を設定します。 NTP を有効にすると、マネジメントブレードの時刻を定期的に NTP サーバと同期させます。同期する方式は「(4)Sync Mode」で指定します。

項目	設定値	内容
2. NTP Server IP	—	NTP サーバの IP アドレスを入力します。 → 「•2. NTP Server IP (1_1_17_2)」 (P.78)
The Lastest Sync Date/Time	—	マネジメントブレードと NTP サーバが時刻同期を行った最新の時刻を表示します。
		重要： ▶ NTP を有効に設定した場合は、この表示で時刻の同期が行われているかどうか必ず確認してください。設定直後は、表示に時間がかかる場合がありますので、ページの再表示を数回行って確認してください。
4. Sync Mode	<input type="checkbox"/> Sync Afterward <input type="checkbox"/> Sync Always	時刻の同期モードを指定します。 • Sync Afterward NTP サーバの時刻が進んでいるときだけ、マネジメントブレードの時刻を合わせます。データベースなど時間関係に注意を要する用途で使用している場合には、このモードを選択してください。 • Sync Always マネジメントブレードの時刻を、15 分ごとに NTP サーバと同期します。

• 2. NTP Server IP (1_1_17_2)

NTP サーバの IP アドレスを入力します。

```

+-----+
|           NTP Server IP           page_1_1_17_2           |
+-----+

(1) NTP Server IP 1 : 0.0.0.0
(2) NTP Server IP 2 : 0.0.0.0
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

項目	内容
1. NTP Server IP 1	プライマリ NTP サーバの IP アドレスを入力します。
2. NTP Server IP 2	セカンダリ NTP サーバの IP アドレスを入力します。

 **重要**

▶ 間違った IP アドレスを入力すると時刻合わせが行われませんので、ご注意ください。

■ Management Blade (1_2)

搭載されているマネジメントブレードとその動作モードが表示されます。

```

+-----+
|           Management Blade           page_1_2           |
+-----+

(1) Management Blade_1 : master
(2) Management Blade_2 : slave
Enter selection or type (0) to quit:

```

項目	内容
Management Blade_1 ~ Management Blade_2	マネジメントブレードの各種情報を表示します。マネジメントブレードの番号を選択すると、各種情報を表示します。 → 「● Management Blade (1_2_1)」 (P.79)

● Management Blade (1_2_1)

選択したマネジメントブレードの各種情報を表示します。

```

+-----+
|           Management Blade           page_1_2_1           |
+-----+

(-) Management Blade Run Mode           : master
(-) Management Blade Status             : **
(-) Management Blade Manufacture        : **
(-) Management Blade Manufacture Date   : MM/DD/YYYY HH:MM:SS
(-) Management Blade Serial Number      : **
(-) Management Blade Product Name       : **
(-) Management Blade Model Name         : **
(-) Management Blade Hardware Version   : **
(-) Management Blade Firmware Version   : **
(-) Management MAC Address              : **:**:**:**:**:**
Enter selection or type (0) to quit:

```

項目	内容
Management Blade Run Mode	マネジメントブレードの動作モードを表示します。 ・ master マネジメントブレードがマスタとして動作して、シャーシの管理を行っています。 ・ slave マネジメントブレードがスレーブとして動作しています。マスタに異常が起こった場合のための待機モードです。
Management Blade Status	マネジメントブレードのステータスを表示します。
Management Blade Manufacture	製造元を表示します。
Management Blade Manufacture Date	製造年月日を表示します。
Management Blade Serial Number	シリアル番号を表示します。
Management Blade Product Name	製品名を表示します。
Management Blade Model Name	モデル名を表示します。
Management Blade Hardware Version	ハードウェア版数を表示します。
Management Blade Firmware Version	ファームウェアの版数を表示します。
Management MAC Address	LAN インタフェースに使用している MAC アドレスを表示します。

■ System Information (1_3)

電源ユニットやシステムファンユニット、温度などのブレードサーバシステムのステータスと構成情報を確認／設定します。

```

+-----+
|                System Information                page_1_3                |
+-----+

(1) System Control Information
(2) System Power Supply
(3) System Fan
(4) System Temperature
(5) System Chassis Table
(6) System UPS
(7) System KVM
(8) System LED Control : off
(9) NIC Status Detection
(10) Turn on/off all server blades
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

□ : 設定項目

項目	設定値	内容
1. System Control Information	—	システムの情報を表示します。 → 「● 1. System Control Information (1_3_1)」 (P.82)

● 1. System Control Information (1_3_1)

システムの情報を表示します。

```

+-----+
|           System Control Information           page_1_3_1           |
+-----+

(-) System Name           : BX600
(-) Number of Fans        : **
(-) Number of Temperature Sensors : **
(-) Number of Power Supply Unit : **
(-) System Housing Type   : BX600
(-) System Overall Status : **
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

項目	内容
System Name	システムの名前を表示します。
Number of Fans	シャーシに搭載されているファンの数を表示します。
Number of Temperature Sensors	シャーシに搭載されている温度センサの数を表示します。
Number of Power Supply Unit	シャーシに搭載されている電源ユニットの数を表示します。
System Housing Type	シャーシのタイプを表示します。
System Overall Status	システム全体のステータスを表示します。

● 2. System Power Supply (1_3_2)

電源の状態を表示します。

```

+-----+
|           System Power Supply           page_1_3_2           |
+-----+

(1) System Power Supply Control      : off
(-) System Power Supply Status      : not-ready
(-) System Power Supply Redundancy   : yes
(4) System Power Supply Unit Table
(5) System Power Supply OVP Reaction : continue
(6) System Power Supply OCP Reaction : continue
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

□ : 設定項目

項目	設定値	内容
1. System Power Supply Control	[ファームウェア V1.33C の場合] <input type="checkbox"/> on <input type="checkbox"/> off <input type="checkbox"/> graceful shutdown [ファームウェア V1.41 以降の場合] <input type="checkbox"/> power on <input type="checkbox"/> Hard Power off <input type="checkbox"/> graceful shutdown and off	シャーシのメイン電源の電源状態を制御します。使用する場合は、「6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項」(→ P.135)を参照してください。 ・ on または power on シャーシのメイン電源を入れます。 ・ off または Hard Power off シャーシのメイン電源を切ります。 ・ graceful shutdown または graceful shutdown and off 搭載されている各サーバブレードに対して「● 1. Server Blade Control Information (1_4_1_1)」(→ P.96)の「1. Server power」で「off」または「graceful shutdown and off」を指示してからメイン電源を切ります。 重要： ▶ この機能を使用する場合は、搭載されるサーバブレードに対して各種の対応が必要になります。詳細は「6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項」(→ P.135)を参照してください。対応していないサーバブレードに対してこの操作を行った場合には、ACPI シャットダウンや電源切断など予期しない動作をするおそれがありますので、選択しないでください。
System Power Supply Status	—	電源全体のステータスを表示します。
System Power Supply Redundancy	—	電源が冗長構成時は「yes」を、非冗長構成時は「no」を表示します。
4. System Power Supply Unit Table	—	搭載されている電源ユニットの一覧を表示します。 → 「● 4. System Power Supply Unit Table (1_3_2_4)」(P.84)

項目	設定値	内容
5. System Power Supply OVP Reaction	<input type="checkbox"/> continue <input type="checkbox"/> shutdown-and-poweroff	電源が OVP (Over Voltage Protection) を検出したときの、システムの動作を設定します。 ・ continue システムの動作を継続します。 ・ shutdown-and-poweroff サーバに対してシャットダウン指示を行い、そのあと電源を切ります。
6. System Power Supply OCP Reaction	<input type="checkbox"/> continue <input type="checkbox"/> shutdown-and-poweroff	電源が OCP (Over Current Protection) を検出したときの、システムの動作を設定します。 ・ continue システムの動作を継続します。 ・ shutdown-and-poweroff サーバに対してシャットダウン指示を行い、そのあと電源を切ります。

• **4. System Power Supply Unit Table (1_3_2_4)**

搭載されている電源ユニットのステータスを一覧表示します。

```

+-----+
|           System Power Unit Status Table           page_1_3_2_4           |
+-----+

(1) Power Supply Unit 1 : **
(2) Power Supply Unit 2 : **
(3) Power Supply Unit 3 : **
(4) Power Supply Unit 4 : **
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

項目	内容
System Power Supply Unit 1 ~ System Power Supply Unit 4	各電源ユニットのステータスを一覧表示します。電源ユニットの番号を選択すると、さらに詳しい情報が表示されます。 → 「・ System Power Supply Unit Table (1_3_2_4_1)」 (P.85)

・ System Power Supply Unit Table (1_3_2_4_1)

選択した電源ユニットの詳細なステータスを表示します。

```

+-----+
|           System Power Supply Unit Table           page_1_3_2_4_1           |
+-----+

(-) System Power Supply Unit Status                : ok
(-) System Power Supply Unit Manufacture            : DELTA
(-) System Power Supply Unit Product Name           : DPS-1200CBA
(-) System Power Supply Model Name                  : AFC00B00043
(-) System Power Supply Product Version             : S3
(-) System Power Supply Serial Number               : ZOD0345003945
(-) System Power Supply Live Time                   : 94
(8) System Power Supply Live Time Reset             : reset
(9) Power Supply Live Time Limited Count            : 0
(-) System Power Supply OVP                         : ok
(-) System Power Supply OCP                         : ok
Enter selection or type (0) to quit:

```

項目	内容
System Power Supply Unit Status	電源ユニットのステータスを表示します。
System Power Supply Unit Manufacture	電源ユニットの製造元を表示します。
System Power Supply Unit Product Name	電源ユニットの製品名を表示します。
System Power Supply Model Name	電源ユニットのモデル名を表示します。
System Power Supply Product Version	電源ユニットのプロダクトバージョンを表示します。
System Power Supply Serial Number	電源ユニットのシリアル番号を表示します。
System Power Supply Live Time	電源ユニットの稼働時間を表示します。
8. System Power Supply Live Time Reset	電源ユニットの稼働時間を 0 にします。電源ユニットを交換した場合は、"reset" を選択して稼働時間を 0 に設定してください。
9. Power Supply Live Time Limited Count	電源ユニットの寿命時間を表示/設定します。通常は設定の変更は行わないでください。
System Power Supply OVP	OVP (Over Voltage Protection) のステータスを表示します。
System Power Supply OCP	OCP (Over Current Protection) のステータスを表示します。

重要

- ▶ 電源ユニットの定期交換について
電源/ダミー電源ユニットは定期交換部品です (→ 『ハードウェアガイド シャーシ編』)。
定期交換後は設定の変更を行ってください。

● 3. System Fan (1_3_3)

システムファンの状態を設定/表示します。

```

+-----+
|               System Fan           page_1_3_3               |
+-----+

(1) System Fans Table
(2) System Fans Live Time Table
(3) Set System Fans Daily Test Time      : disabled
(4) Fan Test At Every Start-up          : disable
(-) System Fans Overall Status           : ok
(6) All Rear Fans Unavailable Reaction   : continue
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

□ : 設定項目

項目	設定値	内容
1. System Fans Table	—	シャーシと電源ユニットに搭載されているファンのテーブルが表示されます。 → 「● 1. System Fans Table (1_3_3_1)」 (P.87)
2. System Fans Live Time Table	—	システムファンの寿命時間を表示/設定します。 → 「● System Fan (1_3_3_2)」 (P.88)
3. Set System Fans Daily Test Time	<input type="checkbox"/> <hh.mm> <input type="checkbox"/> disable	システムファンの動作テストを毎日行う場合の時刻を設定します。 ・ <hh.mm> 時刻を「時:分」で設定します。時間は24時間形式で入力します。 ・ disable 動作テストを行いません。
4. Fan Test At Every Start-up	<input type="checkbox"/> enable <input type="checkbox"/> disable	システムファンの動作テストを、ファンの動作開始時に毎回行うかどうかを設定します。
System Fans Overall Status	—	システムファン全体のステータスが表示されます。 重要: ▶ システムファンユニットの定期交換についてシステムファンユニットは定期交換部品です(→ 『ハードウェアガイド シャーシ編』)。定期交換後は設定の変更を行ってください。
6. All Rear Fans Unavailable Reaction	<input type="checkbox"/> continue <input type="checkbox"/> shutdown-and-poweroff	すべてのシステムファンが動作できない場合の、システムの動作を設定します。 ・ continue システムの動作を継続します。 ・ shutdown-and-poweroff サーバに対してシャットダウン指示を行い、そのあと電源を切ります。

• 1. System Fans Table (1_3_3_1)

シャーシと電源ユニットに搭載されているファンのテーブルが表示されます。

```

+-----+
|               System Fan           page 1_3_3_1               |
+-----+
(1) Rear1-Fan-1      : **
(2) Rear1-Fan-2      : **
(3) Rear2-Fan-3      : **
(4) Rear2-Fan-4      : **
(5) PowerUnit1-Fan-1 : **
(6) PowerUnit1-Fan-2 : **
(7) PowerUnit1-Fan-3 : **
(8) PowerUnit2-Fan-1 : **
(9) PowerUnit2-Fan-2 : **
(10) PowerUnit2-Fan-3 : **
(11) PowerUnit3-Fan-1 : **
(12) PowerUnit3-Fan-2 : **
(13) PowerUnit3-Fan-3 : **
(14) PowerUnit4-Fan-1 : **
(15) PowerUnit4-Fan-2 : **
(16) PowerUnit4-Fan-3 : **
Enter selection or type (0) to quit:

```

項目	内容
Rear1-Fan-1 ~ PowerUnit4-Fan-3	各ファンの設定／表示を行います。ファンの番号を選択すると、そのファンの設定と情報の表示を行うことができます。 → 「・ System Fan (1_3_3_1_1)」 (P.87)

・ System Fan (1_3_3_1_1)

選択したファンの設定／表示を行います。

```

+-----+
|               System Fan           page 1_3_3_1_1           |
+-----+
(1) System Fan Fail Reaction      : continue
(-) System Fan Designation        : Rear1-Fan-1
(-) System Fan Status              : **
(-) System Fan Current Speed       : **
(-) System Nominal Maximum Speed   : **
(-) System Current Maximum Speed   : **
Enter selection or type (0) to quit:

```

□ : 設定項目

項目	設定値	内容
1. System Fan Fail Reaction	<input type="checkbox"/> continue <input type="checkbox"/> shutdown-and-poweroff	各ファンに対して次のアクションを設定します。 ・ continue ファン故障時にもサーバを継続稼働させます。 ・ shutdown-and-poweroff ファン故障発生時にシャーシのメイン電源の graceful シャットダウンを行います。 使用する場合は、「6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項」(→ P.135) を参照してください。
System Fan Designation	—	各ファンの場所を表示します。 ・ Rear1,2-Fan-1 ~ 2 システムファンユニット内蔵ファン ・ PowerUnit1,2,3,4-Fan-1 ~ 3 電源ユニット内蔵ファン (1 : 電源冷却用ファン、2 と 3 : リア部システムファンユニット)
System Fan Status	—	各ファンのステータスを表示します。
System Fan Current Speed	—	各ファンの現在の回転数を表示します。
System Nominal Maximum Speed	—	各ファンの公称最大回転数を表示します。
System Current Maximum Speed	—	各ファンの最大回転数を表示します。

• **System Fan (1_3_3_2)**

システムファンの寿命時間を表示/設定します。

```

+-----+
|           System Fan (REAR Fans)           page_1_3_3_2           |
+-----+

(1) System Fan_1
(2) System Fan_2
(3) System Fan_3
(4) System Fan_4
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

項目	内容
System Fan_1 ~ System Fan_4	システムファンの番号を選択すると、そのファンの稼働時間に関する設定/表示を行うことができます。 → 「・2. System Fans Live Time Table (1_3_3_2_1)」(P.89)

2. System Fans Live Time Table (1_3_3_2_1)

選択したシステムファンユニットの稼働時間に関する設定と情報の表示を行うことができます。

```

+-----+
|                System Fan                page_1_3_3_2_1                |
+-----+

(-) Fan Live Time                : 0
(2) Fan Live Time Reset          : reset
(3) Fan Live Time Limited Count  : 26000
Enter selection or type (0) to quit:

```

項目	内容
Fan Live Time	システムファンユニットの稼働時間を表示します。
2. Fan Live Time Reset	システムファンユニットの稼働時間を 0 にします。 システムファンユニットを交換した場合は、"reset" を選択して稼働時間を 0 に設定してください。
3. Fan Live Time Limited Count	システムファンユニットの寿命時間を表示／設定します。 通常は設定の変更は行わないでください。

4. System Temperature (1_3_4)

システムの温度状態を表示します。

```

+-----+
|                System Temperature                page_1_3_4                |
+-----+

(1) System Temperature Sensor Table
(-) System Temperature Overall Status : ok
Enter selection or type (0) to quit:

```

項目	内容
1. System Temperature Sensor Table	システムの温度状態を表示します。温度センサとその状態の一覧が表示されます。 → 「1. System Temperature Sensor Table (1_3_4_1)」 (P.90)
System Temperature Overall Status	システム全体の温度センサのステータスを表示します。

• **1. System Temperature Sensor Table (1_3_4_1)**

温度センサとその状態の一覧表示を行います。

```

+-----+
|           System Temperature           page_1_3_4_1           |
+-----+

(1) Housing-Left      : ok
(2) Housing-Center   : ok
(3) Housing-Right    : ok
(4) Ambient           : ok
(5) Switch-1         : ok
(6) Switch-2         : ok
(7) Switch-3         : not-available
(8) Switch-4         : not-available
(9) PSU-1            : ok
(10) PSU-2           : ok
(11) PSU-3           : ok
(12) PSU-4           : ok
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

項目	内容
Housing-Left ~ PSU-4	温度センサとその状態の一覧表示を行います。各温度センサを選択すると、その温度センサの設定や情報の表示を行うことができます。 → 「System Temperature (1_3_4_1_1)」 (P.90)

• **System Temperature (1_3_4_1_1)**

選択した温度センサの設定／表示を行います。

```

+-----+
|           System Temperature           page_1_3_4_1_1           |
+-----+

(1) System Temperature Critical Reaction      : continue
(-) System Temperature Sensor Designation    : Housing-Left
(-) System Temperature Sensor Status         : **
(-) System Temperature Upper Warning Level   : **
(-) System Temperature Upper Critical Level  : **
(-) System Temperature Current Value        : **
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

□ : 設定項目

項目	設定値	内容
1. System Temperature Critical Reaction	<input type="checkbox"/> continue <input type="checkbox"/> shutdown-and-poweroff	各温度センサに対して次のアクションを設定します。 ・ continue 温度異常時にも、サーバを継続稼働させます。 ・ shutdown-and-poweroff 温度異常の発生時に、シャーシのメイン電源の graceful シャットダウンを行います。 使用する場合は、「6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項」(→ P.135) を参照してください。
System Temperature Sensor Designation	—	各温度センサの場所を表示します。 ・ Housing-Left, Center, Right シャーシを前から見たときの左側、中央、右側 ・ Ambient フロントコントロールボード内部 ・ Switch-1 ~ 4 スイッチブレード内部 ・ PSU1 ~ 4 電源ユニット内部
System Temperature Sensor Status	—	各温度センサのステータスを表示します。
Set System Temperature Upper Warning Level	—	温度の警告しきい値を表示します。
Set System Temperature Upper Critical Level	—	温度の危険しきい値を表示します。
System Temperature Current Value	—	各温度センサの現在の測定値を表示します。

● 5. System Chassis Table (1_3_5)

シャーシのシステムファンのステータスとシリアル番号を表示します。

```

+-----+
|                System Chassis                page_1_3_5                |
+-----+

(1) System Chassis Intrusion Table
(-) System Chassis Serial Number   : **
(-) System Chassis Product Version : **
Enter selection or type (0) to quit:

```

項目	内容
1. System Chassis Intrusion Table	システムファンユニットの取り付け状態が表示されます。 → 「• System Chassis Intrusion Table (1_3_5_1)」 (P.92)
System Chassis Serial Number	シャーシのシリアル番号を表示します。
System Chassis Product Version	シャーシのプロダクト版数を表示します。

• **System Chassis Intrusion Table (1_3_5_1)**

システムファンユニットの取り付け状態が表示されます。

```

+-----+
| Chassis Intrusion (Sensor_1:Front, Sensor_2:Rear) page_1_3_5_1 |
+-----+

(-) System Chassis Intrusion Sensor_1 : **
(-) System Chassis Intrusion Sensor_2 : **
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

項目	内容
System Chassis Intrusion Sensor_1	Sensor_1 : システムファンユニット 1、Sensor_2 : システムファンユニット 2 のステータスが表示されます。
System Chassis Intrusion Sensor_2	<ul style="list-style-type: none"> • close ファンユニットが取り付けられています。 • open ファンユニットが取り外されています。

● 9. NIC Status Detection (1_3_9)

NIC ステータスの検出について、設定します。

```

+-----+
|          NIC Status Detection          page_1_3_9          |
+-----+

(1) NIC Status Detection : disable
(2) NIC Detection Timeout : 120
Enter selection or type (0) to quit:

```

□ : 設定項目

項目	設定値	内容
1. NIC Status Detection	<input type="checkbox"/> enable <input type="checkbox"/> disable	<p>マネジメントブレードが冗長構成の場合に、NIC ステータスを検出するかどうかを設定します。この設定が有効の場合は、LAN インタフェース経由での通信を常時監視します。一定時間の間に LAN インタフェース経由での通信が行われなかった場合 (2.NIC Detection Timeout) は、NIC ステータスの自己診断テストを行います。ここで異常を検出した場合は、強制的にマスタの切り替えを実行し、通信経路を変更します。これにより、NIC 異常や LAN ケーブルの切断などによる通信障害においても、LAN インタフェース経由の管理/運用の続行が可能になります。</p> <p>補足 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ マネジメントブレードが非冗長構成のときには、「NIC Status Detection」を必ず「disable」に設定してください。 ▶ マネジメントブレードが冗長構成のときに「NIC Status Detection」を「enable」に設定する場合は、必ず事前に次のことを確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ マスタとスレーブのマネジメントブレードに LAN ケーブルを接続してください。この時、接続先のネットワーク機器とのリンクが確立していることを必ず確認してください。 ・ 監視端末がマスタとスレーブのマネジメントブレードの両方に、LAN インタフェースにより通信できるネットワーク構成であることを確認してください。

項目	設定値	内容
2. NIC Detection Timeout	<input type="checkbox"/> 0 ~ 300	NIC ステータスを検出する時間 (秒) を設定します。ここで設定した時間の間に LAN インタフェース経由での通信が行われなかった場合に、NIC ステータスの自己診断テストが行われます。
	補足 :	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ServerView 等のサーバ監視ソフトウェアのタイムアウト値は、「NIC Detection Timeout」の設定値よりも長く設定してください。タイムアウト値の設定に関しては、各種サーバ監視ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

 **重要**

▶ 「NIC Status Detection」で異常が検出された場合、マネジメントブレードのステータスは「critical」になりますが、マネジメントブレード異常ランプは点滅/点灯しません。

● **10.Turn on/off all server blades (1_3_10)**

搭載されているすべてのサーバブレードの電源を制御します。

```

+-----+
|          Turn on/off all server blades          page_1_3_10          |
+-----+

(1) Turn on all server blades
(2) Turn off all server blades
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

項目	内容
1. Turn on all server blades	搭載されているすべてのサーバブレードの電源が、順次入るようにします。
2. Turn off all server blades	選択すると、確認画面が表示されます。確認画面で「Yes, turn off all server blades」を選択すると、搭載されているすべてのサーバブレードの「Server power」に対して、順次「off」または「graceful shutdown and off」が指示されます。サーバブレードの「Server power」については「1. Server power」(→ P.97)」を参照してください。

 **重要**

▶ この項目でサーバブレードの電源制御を行う場合は、指示を行ったあとに、電源の ON/OFF がすべて完了したことを CLI の表示などで確認してから次の操作に進んでください。

■ Server Blade (1_4)

サーバブレードに関する各種設定や情報の表示を行います。

```
+-----+
|           Server Control Information Table           page_1_4           |
+-----+

(1) Server Blade_1: ok
Enter selection or type (0) to quit:
```

項目	内容
Server Blade_1 ~ Server Blade_10	搭載されているサーバブレードの一覧が表示されます。各サーバブレードの番号を選択すると、そのサーバブレードの設定と情報の表示を行うことができます。 → 「● Server Blade (1_4_1)」 (P.95)

POINT

- ▶ BX660 サーバブレードの場合、搭載スロットは偶数番号 (Server Blade_2/4/6/8/10) のみ表示します。

● Server Blade (1_4_1)

選択したサーバブレードに関する各種の設定や表示を行います。

```
+-----+
|           Server Blade           page_1_4_1           |
+-----+

(1) Server Blade Control Information
(2) Server Blade Information
(3) Server Blade CPU
(4) Server Blade Memory
(5) Server Blade Voltage Table
(6) Server Blade Temperature
(7) Server Blade NIC Information
(8) Server Blade Watch Dog
Enter selection or type (0) to quit:
```

項目	内容
1. Server Blade Control Information	サーバブレードの電源や起動に関する設定を行います。 → 「● 1. Server Blade Control Information (1_4_1_1)」 (P.96)
2. Server Blade Information	サーバブレードの情報を表示します。 → 「● 2. Server Blade Information (1_4_1_2)」 (P.99)
3. Server Blade CPU	サーバブレードに搭載されている CPU に関する情報を表示します。 → 「● 3. Server Blade CPU (1_4_1_3)」 (P.100)
4. Server Blade Memory	サーバブレードに搭載されているメモリに関する情報を表示します。 → 「● 4. Server Blade Memory (1_4_1_4)」 (P.101)
5. Server Blade Voltage Table	サーバブレードの電圧に関する情報を表示します。 → 「● 5. Server Blade Voltage Table (1_4_1_5)」 (P.103)
6. Server Blade Temperature	サーバブレード上の温度に関する情報を表示します。 → 「● 6. Server Blade Temperature (1_4_1_6)」 (P.104)
7. Server Blade NIC Information	サーバブレードのオンボードの NIC の情報を表示します。 → 「● 7. Server Blade NIC Information (1_4_1_7)」 (P.106)
8. Server Blade Watch Dog	サーバブレードの Watch Dog に関する設定を行います。 → 「● 8. Server Blade Watch Dog (1_4_1_8)」 (P.107)

● 1. Server Blade Control Information (1_4_1_1)

サーバブレードの電源や起動に関する設定を行います。

```

+-----+
|          Server Blade Control          page_1_4_1_1          |
+-----+

(1) Server power                      : on
(2) Set Server Maximum Restart Retries : 3
(3) Set Server Boot Mode               : normal
(4) Server LED Control                 : off
(-) Server CPU Mode                    : performance
(-) Server Administrative URL           :
Enter selection or type (0) to quit:

```


□ : 設定項目

項目	設定値	内容
1. Server power	<p>[ファームウェア V1.33C の場合]</p> <p><input type="checkbox"/> on</p> <p><input type="checkbox"/> off</p> <p><input type="checkbox"/> power-cycle</p> <p><input type="checkbox"/> reset</p> <p><input type="checkbox"/> NMI</p> <p><input type="checkbox"/> force-off</p> <p>[ファームウェア V1.41 以降の場合]</p> <p><input type="checkbox"/> Power On</p> <p><input type="checkbox"/> graceful shutdown and off</p> <p><input type="checkbox"/> graceful shutdown and power-cycle</p> <p><input type="checkbox"/> hard reset</p> <p><input type="checkbox"/> NMI</p> <p><input type="checkbox"/> Hard Power off</p>	<p>サーバブレードの電源の設定を行います。使用する場合は、「6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項」(→ P.135)を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • on または Power On サーバブレードの電源を入れます。 • off または graceful shutdown and off サーバブレード上で動作する ServerView エージェントによって OS のシャットダウンを行ったあと、正常に電源を切ります。 • graceful shutdown and power-cycle サーバブレード上で動作する ServerView エージェントによって OS のシャットダウンを行い、いったん正常に電源を切ったあと、再度電源を入れます。 • power-cycle サーバブレードの電源を切ったあと、再度電源を入れます。 • reset または hard reset サーバブレードを再起動します。 • NMI 通常は選択しないでください。 • force-off または Hard Power off サーバブレードの電源を強制的に切ります。 <p>重要 :</p> <p>▶ この機能を使用する場合は、サーバブレードに対して各種の対応が必要になります。詳細は「6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項」(→ P.123)を参照してください。対応していないサーバブレードに対してこの操作を行った場合には、ACPI シャットダウンや電源切断など予期しない動作をするおそれがありますので選択しないでください。</p> <p>注意事項 :</p> <p>▶ サーバブレードの電源切断を指示したあと電源 ON を指示する場合は、サーバブレードの電源が確実に切れたことを確認してから行ってください。</p>
2. Set Server Maximum Restart Retries	<input type="checkbox"/> 0 ~ 7	<p>OS 起動に失敗した場合に、何回リトライするかを設定します。</p> <p>0 に設定すると、リトライを行いません。</p>

項目	設定値	内容
3. Set Server Boot Mode	<input type="checkbox"/> normal <input type="checkbox"/> pxe-lan-1 <input type="checkbox"/> pxe-lan-2 <input type="checkbox"/> pxe-lan-3 <input type="checkbox"/> pxe-lan-4 <input type="checkbox"/> add-in-pci-lan-1 <input type="checkbox"/> add-in-pci-lan-2	<p>サーバブレードの OS ブート時のブート方法を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • normal サーバブレードのブートオーダーを、BIOS に設定されているデフォルトの設定にします。 • pxe-lan-1 / pxe-lan-2 サーバブレードのブートオーダーの先頭を、LAN ポート 1 または LAN ポート 2 を使用して、PXE (Preboot eXecution Environment) でブートするように変更します。 • pxe-lan-3 / pxe-lan-4 (BX660 サーバブレードのみ) サーバブレードのブートオーダーの先頭を、LAN ポート 3 または LAN ポート 4 を使用して、PXE (Preboot eXecution Environment) でブートするように変更します。 • add-in-pci-lan-1 / add-in-pci-lan-2 (BX600 サーバブレードのみ) サーバブレードのブートオーダーの先頭を、拡張カードスロットモジュールに搭載した LAN カードのポート 1 またはポート 2 を使用して、PXE (Preboot eXecution Environment) でブートするように変更します。
	補足： ▶ LAN カード以外の拡張カードを搭載しているときに、「add-in-pci-lan-1」または「add-in-pci-lan-2」を選択した場合、サーバブレードがブート途中で停止します。そのときは、一度サーバブレードの電源を切り、ブートモードを変更後に再度電源を入れてください。	
4. Server LED Control	<input type="checkbox"/> blinking <input type="checkbox"/> off	<p>サーバブレード判別機能として、電源ランプの表示を制御します。シャーシに搭載される複数のサーバブレードの判別に使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • blinking サーバブレードの電源ランプを点滅させます。 • off サーバブレード電源ランプの制御を行いません。
Server CPU Mode	—	<p>サーバブレードに搭載されている CPU の動作モードを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • performance サーバブレードに搭載されている CPU は Performance モードで動作しています。 • not-ready CPU は動作していません。
Server Administrative URL	—	使用しません。

● 2. Server Blade Information (1_4_1_2)

サーバブレードの情報を表示します。

```

+-----+
|          Server Blade Information          page 1_4_1_2          |
+-----+
(-) Server Blade Status           : **
(-) Server Blade Manufacture      : **
(-) Server Blade Manufacture Date : MM/DD/YYYY HH:MM:SS
(-) Server Blade Serial Number    : **
(-) Server Blade Product Name     : **
(-) Server Blade Product Version  : **
(-) Server Blade Model Name       : **
(-) Server Blade Hardware Version : **
(-) Server Blade BIOS Version     : **
(-) Server Blade KME Version      : **
(-) Number Of CPU Socket          : **
(-) Number Of Memory Socket       : **
(-) Server Blade OS Type          : **
(-) Server Blade OS Version       : **
(-) Server Blade BMC Firmware Version : **
(-) Server Blade PCI Add-In Card  : Not-present
(-) Server Blade (FC) Daughter Card : present
Enter selection or type (0) to quit:

```

項目	内容
Server Blade Status	サーバブレードのステータスを表示します。
Server Blade Manufacture	製造元を表示します。
Server Blade Manufacture Date	製造年月日を表示します。
Server Blade Serial Number	シリアルナンバーを表示します。
Server Blade Product Name	製品名を表示します。
Server Blade Product Version	プロダクト版数を表示します。
Server Blade Model Name	モデル名を表示します。
Server Blade Hardware Version	ハードウェアの版数を表示します。
Server Blade BIOS Version	BIOS の版数を表示します。
Server Blade KME Version (ファームウェア V1.41 以降)	KME (キーボードマウスエミュレータ) の版数を表示します。
Number Of CPU Socket	CPU ソケットの数を表示します。
Number Of Memory Socket	搭載されているメモリスロットの数を表示します。
Server Blade OS Type	ServerView エージェントが OS にインストールされている場合、OS のタイプを表示します。
Server Blade OS Version	ServerView エージェントが OS にインストールされている場合、OS のバージョンを表示します。
Server Blade BMC Firmware Version	BMC (Baseboard Management Controller : ベースボード上で温度や電圧などのセンサ等を管理しているマイクロコントローラ) のファーム版数を表示します。
Server Blade PCI Add-In Card	拡張カードスロットモジュールの搭載状態が表示されます。
Server Blade FC Daughter Card または Server Blade Daughter Card	サーバブレードに搭載する I/O ドータカード (ファイバーチャネルドータカード等) の状態を表示します。

● 3. Server Blade CPU (1_4_1_3)

サーバブレードに搭載されている CPU に関する情報を表示します。

```

+-----+
|          Server Blade CPU Table          page_1_4_1_3          |
+-----+

(1) CPU 1 : ok
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

項目	内容
CPU 1	搭載されている CPU のステータスが一覧表示されます。各 CPU の番号を選択すると、その CPU の詳しい情報を表示できます。 → 「• Server Blade CPU Information」 (P.100)

• Server Blade CPU Information

選択した CPU の詳細情報を表示します。

```

+-----+
|          Server Blade CPU Information          page_1_4_1_3_1          |
+-----+

(-) CPU Type           : **
(-) CPU Frequency      : **
(-) CPU Step           : **
(-) CPU Status         : **
(-) CPU Name           : **
(-) CPU Socket Designation : **
(-) CPU Manufacturer   : **
(-) CPU CLock          : **
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

項目	内容
CPU Type	CPU のタイプを表示します。
CPU Frequency	CPU の周波数を表示します。
CPU Step	CPU のステップングを表示します。
CPU Status	CPU のステータスを表示します。
CPU Name	CPU の種類を表示します。

項目	内容
CPU Socket Designation	CPU のソケットの場所を表示します。
CPU Manufacturer	CPU の製造元を表示します。
CPU CLock	CPU バスの動作周波数を表示します。

● 4. Server Blade Memory (1_4_1_4)

サーバブレードに搭載されているメモリに関する情報を表示します。

```

+-----+
|           Server Blade Memory           page_1_4_1_4           |
+-----+

(1) Server Blade Memory Information Table
(2) Server Blade Memory Modules Table
Enter selection or type (0) to quit:

```

項目	内容
1. Server Blade Memory Information Table	メモリの総容量を表示します。 → 「• 1. Server Blade Memory Information Table (1_4_1_4_1)」 (P.101)
2. Server Blade Memory Modules Table	搭載されているメモリモジュールのステータスが表示されます。 → 「• 2. Server Blade Memory Modules Table (1_4_1_4_2)」 (P.102)

• 1. Server Blade Memory Information Table (1_4_1_4_1)

メモリの総容量を表示します。

```

+-----+
|           Memory Information Table           page_1_4_1_4_1           |
+-----+

(-) Physical Memory Size      : **
Enter selection or type (0) to quit:

```

• **2. Server Blade Memory Modules Table (1_4_1_4_2)**

搭載されているメモリモジュールのステータスを表示します。

図は、BX600 サーバブレードの例です。

```

+-----+
| Server Blade Memory Module Table      page_1_4_1_4_2 |
+-----+

(1) Memory Module 1 : **
(2) Memory Module 2 : **
(3) Memory Module 3 : **
(4) Memory Module 4 : **
(5) Memory Module 5 : **
(6) Memory Module 6 : **
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

項目	内容
Memory Module n (n はメモリスロット番号)	<p>搭載されているメモリモジュールのステータスが表示されます。 各メモリモジュールの番号を選択すると、そのメモリモジュールに関する詳しいステータスが表示されます。 → 「・ Memory Module Information Table」 (P.102)</p> <p>補足 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示されるメモリモジュール番号 (メモリスロット番号) は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ BX600 サーバブレードの場合 : Memory Module 1 ~ 6 ・ BX660 サーバブレードの場合 : Memory Module 1 ~ 8

• **Memory Module Information Table**

選択したメモリモジュールに関するステータスの詳細を表示します。

```

+-----+
| Memory Module Information Table      page_1_4_1_4_2_1 |
+-----+

(-) Memory Module Status           : **
(-) Memory Module Size              : **
(-) Memory Module Type              : **
(-) Memory Module Socket Designation : **
(-) Memory Module Speed             : **
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

項目	内容
Memory Module Status	メモリモジュールのステータスを表示します。
Memory Module Size	メモリモジュールの容量を表示します。
Memory Module Type	メモリモジュールのタイプを表示します。
Memory Module Socket Designation	メモリモジュールが搭載されている位置を表示します。
Memory Module Speed	メモリバスの動作周波数を表示します。

● 5. Server Blade Voltage Table (1_4_1_5)

サーバブレードの電圧に関する情報を表示します。

図は、BX600 サーバブレードの例です。

```

+-----+
|           Server Voltage Table           page_1_4_1_5           |
+-----+

(1) Voltage ID 1 : 12V
(2) Voltage ID 2 : VBAT
(3) Voltage ID 3 : CPU VID
(4) Voltage ID 4 : VCC 3.3V
(5) Voltage ID 5 : VCC 2.5V
(6) Voltage ID 6 : VCC 5.0V
(7) Voltage ID 7 : A_VIT 1.25V
Enter selection or type (0) to quit:

```

項目	内容
Voltage ID n (n は電圧センサ番号)	<p>サーバブレードの電圧に関する情報を表示します。 測定している電圧が表示されます。各電圧センサの番号を選択すると、その電圧に関する詳しい情報が表示されます。 → 「• Server Voltage Information Table (1_4_1_5_1)」 (P.104)</p> <p>補足：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示される電圧センサ番号は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ BX600 サーバブレードの場合：Voltage ID 1 ~ 7 ・ BX660 サーバブレードの場合：Voltage ID 1 ~ 14

● **Server Voltage Information Table (1_4_1_5_1)**

選択した電圧の詳細な情報を表示します。

```

+-----+
|           Server Voltage Information Table           page_1_4_1_5_1 |
+-----+

(-) Server Voltage Designation      : 12V
(-) Server Voltage Status            : **
(-) Server Voltage Minimum Value    : **
(-) Server Voltage Maximum Value    : **
(-) Server Voltage Current Value     : **
(-) Server Voltage Nominal Value    : **
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

項目	内容
Server Voltage Designation	電圧センサの場所を表示します。
Server Voltage Status	電圧センサのステータスを表示します。
Server Voltage Minimum Value	電圧の危険下限しきい値を表示します。
Server Voltage Maximum Value	電圧の危険上限しきい値を表示します。
Server Voltage Current Value	電圧の現在の値を表示します。
Server Voltage Nominal Value	電圧の公称値を表示します。

● **6. Server Blade Temperature (1_4_1_6)**

サーバブレード上の温度に関する情報を表示します。

図は、BX600 サーバブレードの例です。

```

+-----+
|           Server Temperature           page_1_4_1_6 |
+-----+

(1) Temperature Sensor ID 1 : SYSTEM TEMP1
(2) Temperature Sensor ID 2 : SYSTEM TEMP2
(3) Temperature Sensor ID 3 : CPU1 TEMP
(4) Temperature Sensor ID 4 : CPU2 TEMP
Enter selection or type (0) to quit:
    
```


項目	内容
Temperature Sensor ID n (n は温度センサ番号)	<p>サーバブレード上の温度に関する情報を表示します。 測定している温度が表示されます。各温度の数値を選択すると、その温度に関する詳しい情報が表示されます。 → 「• Server Temperature Sensor Information Table (1_4_1_6_1)」 (P.105)</p> <p>補足： ▶ 表示される温度センサ番号は、次のとおりです。 ・ BX600 サーバブレードの場合：Temperature Sensor ID 1～4 ・ BX660 サーバブレードの場合：Temperature Sensor ID 1～5</p>

• Server Temperature Sensor Information Table (1_4_1_6_1)

選択した測定温度の詳細情報を表示します。

```

+-----+
| Server Temperature Sensor Information Table      page_1_4_1_6_1 |
+-----+

(-) Server Temperature Sensor Designation      : SYSTEM TEMP1
(-) Server Temperature Sensor Status           : **
(-) Server Temperature Upper Warning Level     : **
(-) Server Temperature Upper Critical Level    : **
(-) Server Temperature Lower Warning Level     : **
(-) Server Temperature Lower Critical Level    : **
(-) Server Temperature Current Value          : **
Enter selection or type (0) to quit:

```

項目	内容
Server Temperature Sensor Designation	温度センサの場所を表示します。
Server Temperature Sensor Status	温度センサのステータスを表示します。
Server Temperature Upper Warning Level	警告レベルと判断される、高温側の温度を表示します。
Server Temperature Upper Critical Level	異常レベルと判断される、高温側の温度を表示します。
Server Temperature Lower Warning Level	警告レベルと判断される、低温側の温度を表示します。
Server Temperature Lower Critical Level	異常レベルと判断される、低温側の温度を表示します。
Server Temperature Current Value	温度センサの現在の値を表示します。

● 7. Server Blade NIC Information (1_4_1_7)

サーバブレードのオンボードのNICの情報を表示します。

```

+-----+
|          Server NIC Information          page_1_4_1_7          |
+-----+

(1) Server Blade NIC IP Table
(2) Server Blade MAC Address Table
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

項目	内容
1. Server Blade NIC IP Table	ServerView Agent が OS にインストールされている場合、サーバブレードの IP アドレスを表示します。 → 「• 1. Server Blade NIC IP Table (1_4_1_7_1)」 (P.106)
2. Server Blade MAC Address Table	サーバブレードの MAC アドレスを表示します。 → 「• 2. Server Blade MAC Address Table (1_4_1_7_2)」 (P.107)

• 1. Server Blade NIC IP Table (1_4_1_7_1)

ServerView Agent が OS にインストールされている場合、サーバブレードの IP アドレスを表示します。

図は、BX600 サーバブレードの例です。

BX660 サーバブレードは、標準で LAN ポートを 4 ポート装備しているので、IP アドレスは 4 つ表示されます。

```

+-----+
|          Server Blade NIC IP          page_1_4_1_7_1          |
+-----+

(-) IP1 : n.n.n.n
(-) IP2 : n.n.n.n
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

● 2. Server Blade MAC Address Table (1_4_1_7_2)

サーバブレードの MAC アドレスを表示します。

図は BX600 サーバブレードの例です。

BX600 サーバブレードは、標準で LAN ポートを 4 ポート装備しているので、MAC アドレスは 4 つ表示されます。

```

+-----+
|          Server Blade MAC Address          page_1_4_1_7_2          |
+-----+

(-) NIC1 : nn:nn:nn:nn:nn:nn
(-) NIC2 : nn:nn:nn:nn:nn:nn
Enter selection or type (0) to quit:

```

● 8. Server Blade Watch Dog (1_4_1_8)

サーバブレードの Watch Dog に関する設定を行います。

```

+-----+
|          Server Blade Watchdog          page_1_4_1_8          |
+-----+

(1) Server Blade Software Watchdog
(2) Server Blade Boot Watchdog
Enter selection or type (0) to quit:

```

項目	内容
1. Server Blade Software Watchdog	サーバブレードの OS ハング監視機能について表示します。 → 「1. Server Blade Software Watchdog (1_4_1_8_1)」 (P.108)
2. Server Blade Boot Watchdog	サーバブレードの OS 起動監視を行います。 → 「2. Server Blade Boot Watchdog (1_4_1_8_2)」 (P.108)

• **1. Server Blade Software Watchdog (1_4_1_8_1)**

サーバブレードの OS ハング監視機能について表示します。
設定は ServerView で行います。

```

+-----+
|   Software Watchdog Information   page_1_4_1_8_1   |
+-----+

(-) Software Watchdog Time      : 0.00
(-) Software Watchdog Action    : not-ready
(-) Software Watchdog Status    : disable
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

項目	内容
Software Watchdog Time	OS ハング時のタイムアウト時間を表示します。
Software Watchdog Action	サーバブレードの OS ハング時のアクションを表示します。
Software Watchdog Status	Software Watchdog Status ソフトウェアウォッチドッグのステータスを表示します。

• **2. Server Blade Boot Watchdog (1_4_1_8_2)**

サーバブレードの OS 起動監視を行います。サーバブレードの POST が終了してから ServerView エージェントが起動するまでの間隔を監視することにより、サーバブレードの OS 起動を監視します。

```

+-----+
|   Boot Watchdog Information   page_1_4_1_8_2   |
+-----+

(1) Set Boot Watchdog Time      : 10 minutes
(2) Set Boot Watchdog Enable    : disable
(3) Set Boot Watchdog Action    : reboot
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

□ : 設定項目

項目	設定値	内容
1. Set Boot Watchdog Time	<input type="checkbox"/> 2 minutes <input type="checkbox"/> 5 minutes <input type="checkbox"/> 10 minutes <input type="checkbox"/> 15 minutes <input type="checkbox"/> 20 minutes <input type="checkbox"/> 30 minutes <input type="checkbox"/> 60 minutes <input type="checkbox"/> 100 minutes	設定された時間に従い、OS 起動失敗を監視します。
2. Set Boot Watchdog Enable	<input type="checkbox"/> enable <input type="checkbox"/> disable	OS 起動の監視を行うかどうかについて設定します。
3. Set Boot Watchdog Action	[ファームウェア V1.33C の場合] <input type="checkbox"/> reboot <input type="checkbox"/> off <input type="checkbox"/> power-cycle [ファームウェア V1.41 以降の場合] <input type="checkbox"/> no-action <input type="checkbox"/> hard reset <input type="checkbox"/> off <input type="checkbox"/> graceful shutdown and power-cycle	サーバブレードの電源の設定を行います。使用する場合は、「6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項」(→ P.135) を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> • reboot または hard reset サーバブレードを再起動します。 • off サーバブレードの電源を切ります。(BX660 サーバブレードでは未サポート) • power-cycle サーバブレードの電源を切ったあと、再度電源を入れます。 • no-action そのままの状態でもししません。 • graceful shutdown and power-cycle サーバブレード上で動作する ServerView エージェントによって OS のシャットダウンを行い、いったん正常に電源を切ったあと、再度電源を入れます。

POINT

- ▶ 「OS ブート監視」機能の有効/無効は ServerView から設定できます。

重要

- ▶ サーバブレードに ServerView をインストールしていない場合は、必ず「Disabled」に設定してください。「Enabled」に設定した場合、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。
- ▶ サーバブレードに ServerView をインストールしている場合にも、ServerStart CD-ROM やハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを入れてシステムを起動する場合は、必ず「OS ブート監視」機能を無効に設定してください。
「OS ブート監視」機能を有効にしたままシステムを起動すると、サーバブレードが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。「OS ブート監視」機能を有効にして運用している場合は、運用を再開する前に、再度本機能を有効にしてください。
- ▶ 本機能の設定時には『ServerView ユーザーズガイド』を参照し、本機能の仕様と運用方法を十分ご理解の上、正しく設定してください。

■ Switch Blade (1_5)

スイッチブレードの各種情報を表示します。

```

+-----+
|          Switch Blade Name Table          page_1_5          |
+-----+

(1) Switch Blade_1: ok
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

項目	内容
Switch Blade_1 ~ Switch Blade_2	搭載されているスイッチブレードの一覧が表示されます。各スイッチブレードの番号を選択すると、そのスイッチブレードに関する詳しい情報について、設定／表示できます。 → 「● Switch Blade Information (1_5_1)」(P.110)

● Switch Blade Information (1_5_1)

各スイッチブレードの詳細情報を設定／表示します。

```

+-----+
|          Switch Blade Information          page_1_5_1          |
+-----+

(-) Administrative URL           : http://n.n.n.n.n/
(-) Switch Blade Status          : **
(-) Switch Blade Manufacture     : **
(-) Switch Blade Manufacture Date : MM/DD/YYYY HH:DD:SS
(-) Switch Blade Serial Number   : **
(-) Switch Blade Product Name    : **
(-) Switch Blade Model Name      : **
(-) Switch Blade Hardware Version : **
(-) Switch Blade Firmware Version : **
(-) Switch Blade MAC Address     : nn:nn:nn:nn:nn:nn
(-) Switch Blade IP Address      : n.n.n.n
(-) Switch Blade Subnet Mask     : n.n.n.n
(-) Switch Blade Gateway         : n.n.n.n
(14) Switch Blade IP Address Setting Value : n.n.n.n
(15) Switch Blade Subnet Mask Setting Value : n.n.n.n
(16) Switch Blade Gateway Setting Value   : n.n.n.n
(17) Apply Network Setting
(18) Switch Blade LED Control       : off
(19) Reboot Switch Blade
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

□ : 設定項目

項目	設定値	内容
Administrative URL	—	スイッチブレードの Web インタフェースの URL が表示されます。
Switch Blade Status	—	スイッチブレードのステータスを表示します。
Switch Blade Manufacture	—	製造元を表示します。
Switch Blade Manufacture Date	—	製造年月日を表示します。
Switch Blade Serial Number	—	シリアルナンバーを表示します。
Switch Blade Product Name	—	製品名を表示します。
Switch Blade Model Name	—	モデル名を表示します。
Switch Blade Hardware Version	—	ボードの版数を表示します。
Switch Blade Firmware Version	—	ファームウェアの版数を表示します。
Switch Blade MAC Address	—	スイッチブレードの管理用 LAN インタフェースの MAC アドレスを表示します。
Switch Blade IP Address	—	スイッチブレードの管理用 LAN インタフェースの IP アドレスを表示します。
Switch Blade Subnet Mask	—	スイッチブレードに設定されているサブネットマスクを表示します。
Switch Blade Gateway	—	スイッチブレードに設定されているゲートウェイアドレスを表示します。
14. Switch Blade IP Address Setting Value	—	スイッチブレードの IP アドレスを設定します。(17) で apply することにより、スイッチブレードに設定されます。
15. Switch Blade Subnet Mask Setting Value	—	スイッチブレードのサブネットマスクの値を設定します。(17) で apply することにより、スイッチブレードに設定されます。
16. Switch Blade Gateway Setting Value	—	スイッチブレードのゲートウェイアドレスを設定します。(17) で apply することにより、スイッチブレードに設定されます。
17. Apply Network Setting	—	(14)、(15)、(16) で設定した値を、スイッチブレードに適用します。 適用された情報は、スイッチブレードの起動用設定ファイルとして、"backupexi" というファイル名で保存されます。
18. Switch Blade LED Control	<input type="checkbox"/> blinking <input type="checkbox"/> off	スイッチブレード判別機能として、スイッチブレードの保守ランプの表示を制御することができます。シャーシに搭載される複数のスイッチブレードの判別に使用します。 • blinking スイッチブレード保守ランプを点滅させます。 • off スイッチブレード保守ランプを制御しません。
19. Reboot Switch Blade	—	スイッチブレードの再起動を行います。 → 「• 19. Reboot Switch Blade (1_5_1_19)」 (P.112)

• **19. Reboot Switch Blade (1_5_1_19)**

スイッチブレードの再起動を行います。

```

+-----+
|                                     |
|                                     | page_1_5_1_19 |
|                                     |
+-----+

Reboot Switch Blade
(1) reboot now!
(0) quit
Enter selection :
    
```

項目	内容
1. reboot now!	選択すると、スイッチブレードが再起動します。
quit	Switch Blade Information (1_5_1) へ戻ります。

■ **Username And Password (1_6)**

ユーザの追加やパスワードの設定を行います。

```

+-----+
|                                     |
|                                     | User ID List   page_1_6 |
|                                     |
+-----+

(1) User_1 : root
(2) User_2 :
(3) User_3 :
(4) User_4 :
(5) User_5 :
(6) User_6 :
(7) User_7 :
(8) User_8 :
(9) User_9 :
(10)User_10:
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

項目	内容
User_1 ~ User_10	ユーザの追加やパスワードの設定を行います。 ユーザの一覧が表示されます。各ユーザの番号を選択すると、そのユーザのパスワードなどの設定変更を行うことができます。 → 「● Edit Username And Password (1_6_1)」 (P.113)

● Edit Username And Password (1_6_1)

選択したユーザについて、パスワードなどの設定を行います。

図は、ファームウェアのバージョンが V1.33C の場合です。

```

+-----+
|           Edit Username And Password           page_1_6_1           |
+-----+

(1) Change Username : root
(2) Change Password : ****
(3) User Permission : administrator
Enter selection or type (0) to quit:

```

□ : 設定項目

項目	設定値	内容
1. Change Username	—	新規追加や変更したいユーザ名を入力します。
2. Change Password	—	変更したいパスワードを入力します。
[ファームウェア V1.33C の場合] 3. User Permission	[ファームウェア V1.33C の場合] <input type="checkbox"/> read only <input type="checkbox"/> read write <input type="checkbox"/> administrator	ユーザの権限を設定します。 [ファームウェア V1.33C の場合] • Read Only 設定の読み取り専用です。 • Read Write 設定の読み書きができます。
[ファームウェア V1.41 の場合] 3. User Group 4. User Permission	[ファームウェア V1.41 以降の場合] <input type="checkbox"/> read only <input type="checkbox"/> modify values <input type="checkbox"/> configure users <input type="checkbox"/> reset/switch off <input type="checkbox"/> access EMP via CLI	• Administrator 管理者 (root) の権限を持ちます。 [ファームウェア V1.41 以降の場合] (注) • Read Only 設定の読み取り専用です。 • Modify values 設定の読み書きができます。 • Configure users (マネジメントブレードの) ユーザアカウント管理ができます。 • Reset/Switch Off リセットや電源切断ができます。 • Access EMP via CLI CLI 経由で EMP へのアクセスができます。 (未サポート)

項目	設定値	内容
3. Server Blade Power On/Off Event Log Enable	<input type="checkbox"/> enable <input type="checkbox"/> disable	<p>サーバブレードの電源 ON/OFF やシャットダウンについて、マネジメントブレードのイベントログに記録するかどうか設定します。</p> <p>重要：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ この設定を「enable」にすると、イベントログが記録される件数が多くなります。イベントログの残りの件数に注意して、最大件数を超えないようにしてください。
4. Management Blade Wrap Around Event Log Enable	<input checked="" type="radio"/> enable <input type="checkbox"/> disable	<p>マネジメントブレードのイベントログが最大件数になったときのログ動作を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • enable イベントログが最大件数になった場合、古いログから順番に上書きします。 • disable イベントログが最大件数になった場合、ログ動作を停止します。

● 2. Server Blade Event Log Table

シャーシに搭載されている個々のサーバブレードのログを確認します。
 選択後に、次の画面でログのフィルタリング操作と削除を行います。

```

+-----+
|          Manage Blade Event Log Level          page_1_8_1          |
+-----+

(1) All Event
(2) Informational Event
(3) Minor Event
(4) Major Event
(5) Critical Event
(6) Clear All Entries
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

項目	内容
1. All Event	すべてのログを表示させます。
2. Informational Event	インフォメーションのみを表示させます。
3. Minor Event	マイナーイベントのみを表示させます。
4. Major Event	メジャーイベントのみを表示させます。
5. Critical Event	クリティカルイベントのみを表示させます。
6. Clear All Entries	すべてのログを消去します。

次のようなフォーマットでログが表示されます。**【Enter】** キーを押すと、すべてのログを確認することができます。イベントログのエントリは、マネジメントブレードでは最大 510 件、BX660 サーバブレードでは最大 254 件、BX600 サーバブレードでは最大 488 件まで保存できます。

- 画面上部にログの件数に関する情報が表示されます。

```
SEL entry number:nnn
```

- システムイベントログ (SEL) に入っているログの数を表示します。

```
Free space of SEL entry:nnn
```

- システムイベントログに入る残りのログ件数を表示します。

```

SEL entry number:nnn, Free space of SEL entry:nnn
MM/DD/YYYY HH:MM:SS Info    00062 *****.
MM/DD/YYYY HH:MM:SS Info    00062 *****.
MM/DD/YYYY HH:MM:SS Info    00062 *****.
MM/DD/YYYY HH:MM:SS Info    00062 *****.
MM/DD/YYYY HH:MM:SS Info    00062 *****.
MM/DD/YYYY HH:MM:SS Info    00062 *****.
MM/DD/YYYY HH:MM:SS Info    00062 *****.
MM/DD/YYYY HH:MM:SS Info    00062 *****.
----- XXX entries left, Press Enter (or type 0 to quit) -----
    
```

POINT

- ▶ マネジメントブレードで「Management Blade Wrap Around Event Log Enable」を「disable」に設定した場合、イベントログが最大件数になると、それ以後のログは記録されません。定期的に「Event Log」でログを確認し、必要に応じてログの保存/消去を行ってください。保存は画面のテキストをコピーして行ってください。

■ Set System Default (1_9)

マネジメントブレードの設定をデフォルト設定に戻します。

```

+-----+
|               Set System Default               page_1_9               |
+-----+

(1) Set Config Default           : false
(2) Set Username/Password Default : false
(3) Set CMOS Backup Default      : false
(4) Set Deployment Default       : false
(5) Set Switch Blade Config Default : false
Enter selection or type (0) to quit:

```

□ : 設定項目 ◎ : ご購入時設定値

項目	設定値	内容
1. Set Config Default	◎ false □ true	設定をデフォルトに戻します。ただし、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイはデフォルト設定に戻りません。また、Time Zone は (GMT+0) になります。必要に応じて変更してください。 デフォルトにするためには「True」に設定したあと、マネジメントブレードを再起動します。設定は再起動後に有効になります。
2. Set Username/Password Default	◎ false □ true	ユーザ名とパスワードをデフォルトに戻します。デフォルトにするためには「True」に設定したあと、マネジメントブレードを再起動します。設定は再起動後に有効になります。
3. Set CMOS Backup Default	◎ false □ true	CMOS Backup 設定をデフォルトに戻します。デフォルトにするためには「True」に設定したあと、マネジメントブレードを再起動します。設定は再起動後に有効になります。
4. Set Deployment Default	◎ false □ true	Deployment 設定をデフォルトに戻します。デフォルトにするためには「True」に設定したあと、マネジメントブレードを再起動します。設定は再起動後に有効になります。
5. Set Switch Blade Config Default (ファームウェア V1.41 以降)	◎ false □ true	本機能はサポートしません。

■ Server CMOS Backup/Restore (1_10)

サーバブレードの BIOS セットアップユーティリティによって設定された CMOS 情報の退避／復元処理を行います。

サーバブレードの電源を入れたあと POST が終了しなければ操作できません。操作可能なサーバブレードは [Ready] と表示されます。

各サーバブレードの BIOS 情報の退避状況を表示します。退避されたデータがある場合には、[MAC アドレス, 日付, BIOS 版数] が表示されます。

```

+-----+
| Server Blade [Status][CMOS Backup File] Table   page_1_10 |
+-----+
(1) Server Blade_1  :[Ready    ] [No Backup COMS File           ]
(2) Server Blade_2  :[Ready    ] [No Backup COMS File           ]
(3) Server Blade_3  :[Not Ready ] [No Backup COMS File           ]
(4) Server Blade_4  :[Not Ready ] [No Backup COMS File           ]
(5) Server Blade_5  :[Not Ready ] [No Backup COMS File           ]
(6) Server Blade_6  :[Not Ready ] [No Backup COMS File           ]
(7) Server Blade_7  :[Not Ready ] [No Backup COMS File           ]
(8) Server Blade_8  :[Not Ready ] [No Backup COMS File           ]
(9) Server Blade_9  :[Not Ready ] [No Backup COMS File           ]
(10) Server Blade_10:[Not Ready ] [No Backup COMS File           ]
Enter selection or type (0) to quit:

```

項目	内容
Server Blade_1 ~ Server Blade_10	<p>サーバブレードの BIOS セットアップユーティリティによって設定された CMOS 情報の退避／復元処理を行います。</p> <p>サーバブレードの電源を入れたあと POST が終了しなければ操作できません。操作可能なサーバブレードは [Ready] と表示されます。</p> <p>各サーバブレードの BIOS 情報の退避状況を表示します。退避されたデータがある場合には、[MAC アドレス, 日付, BIOS 版数] が表示されます。</p> <p>各サーバブレードの番号を選択すると、そのサーバブレードの退避／復元に関する設定を行うことができます。</p> <p>→ 「● Server CMOS Configure (1_10_1)」 (P.119)</p> <p>補足：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ BX660 サーバブレードの場合、搭載スロットは偶数番号 (Server Blade_2/4/6/8/10) のみ表示します。

● Server CMOS Configure (1_10_1)

選択したサーバブレードの CMOS ファイルに関する設定を行います。

```

+-----+
|           Server CMOS Configure           page_1_10_1           |
+-----+

(1) CMOS Control
(2) CMOS Configure Restore Target      : **
(-) Server CMOS ID With BIOS Version  : nnnn
(-) Server CMOS ID With Mac Address   : nn:nn:nn:nn:nn:nn
(-) Backup Date Time                  : MM/DD/YYYY HH:MM:SS
Enter selection or type (0) to quit:

```

項目	内容
CMOS Control	CMOS の制御を行います。 → 「• CMOS Control (1_10_1_1)」 (P.119)
CMOS Configure Restore Target	復元対象となるサーバブレードのスロット番号設定を入力します。 → 「• CMOS Configure Restore Target (1_10_1_2)」 (P.120)
Server CMOS ID With BIOS Version	BIOS 情報を退避したサーバブレードの BIOS 版数を表示します。
Server CMOS ID With Mac Address	BIOS 情報を退避したサーバブレードの MAC アドレスを表示します。
Backup Date Time	サーバブレードから BIOS 情報を退避した日付を表示します。

• CMOS Control (1_10_1_1)

CMOS の制御を行います。

```

+-----+
|           Page_1_10_1_1           |
+-----+

CMOS Control : unknown
(1) backup
(2) smart-restore
(3) force-restore
(0) quit
Enter selection :

```

項目	内容
1. backup	選択したサーバブレードの BIOS 情報の退避を行います。
2. smart-restore	このスロットで退避したデータを、「CMOS Configure Restore Target」で選択したスロット番号に搭載されているサーバブレードに対してスマートリストアを行います。BIOS 情報を退避したサーバブレードと復元対象のサーバブレードの MAC アドレスとスロット番号が合っている場合のみ BIOS 情報の復元を行います。
3. force-restore	このスロットで退避したデータを、「CMOS Configure Restore Target」で選択したスロット番号に搭載されているサーバブレードに対してフォースリストアを行います。BIOS 情報を退避したサーバブレードと復元対象のサーバブレードの MAC アドレスとスロット番号が合っていない場合でも、BIOS 情報の復元を強制的に行います。

重要

- ▶ CMOS 設定ファイルを退避したサーバブレードと復元先のサーバブレードのモデルが異なる場合、この機能は使用できません。また、BIOS 版数が異なる場合も使用できません。

• CMOS Configure Restore Target (1_10_1_2)

復元対象となるサーバブレードのスロット番号設定を入力します。

```

+-----+
|           Page_1_10_1_2           |
+-----+

CMOS Configure Restore Target : 1
Please Input New Value (Press enter to quit)
-->>

```

重要

- ▶ BIOS セットアップユーティリティによって設定される情報のみを退避／復元することができます。オンボード SCSI アレイコントローラの BIOS 情報については退避／復元できません。
- ▶ 退避／復元の結果はマネジメントブレードのイベントログに記録されます。

□ : 設定項目

項目	設定値	内容
Backup/restore Control	—	退避／復元の制御を行います。 → 「• Backup/restore Control (1_11_1_1)」 (P.122)
View Backup Configuration	—	退避した設定情報を表示します。
Auto Restore Enable	<input type="checkbox"/> enable <input type="checkbox"/> disable	退避した設定情報を、自動でスイッチブレードに対してリストアするかどうか設定します。 「enable」に設定すると、自動リストアは、新たにスイッチブレードがシャーシへ搭載された場合のみ行われます。リストアされた設定情報は、スイッチブレードの起動用設定ファイルとして、「backup_cfg」というファイル名で保存されます。

• **Backup/restore Control (1_11_1_1)**

退避／復元の制御を行います。

```

+-----+
| page_1_11_1_1 |
+-----+
Switch Backup/restore Control : backup
(1) backup
(2) force-restore
(0) quit
Enter selection or type (0) to quit:
    
```

項目	内容
1. backup	選択したスイッチブレードの現在の設置情報の退避を行います。
2. force-restore	退避されている設定情報を、現在搭載されているスイッチブレードに対してフォースリストアします。フォースリストアされた設定情報は、スイッチブレードの起動用設定ファイルとして、「backup_cfg」というファイル名で保存されます。

項目	内容
Chassis ID	シャーシの ID を表示します。
Slot ID	サーバブレードが搭載されているスロットを表示します。
MAC Address_1 MAC Address_2	サーバブレードの LAN ポート 1 および LAN ポート 2 の MAC アドレスを表示します。
MAC Address_3 MAC Address_4	サーバブレードの LAN ポート 3 および LAN ポート 4 の MAC アドレスを表示します。(BX660 サーバブレードのみ)
5. / 7. IP Address_1 6. / 8. IP Address_2	サーバブレードの LAN ポート 1 および LAN ポート 2 の IP アドレスを表示します。
9. IP Address_3 10. IP Address_4	サーバブレードの LAN ポート 3 および LAN ポート 4 の IP アドレスを設定します。(BX660 サーバブレードのみ)
7. / 11. Subnet Mask_1 8. / 12. Subnet Mask_2	サーバブレードの LAN ポート 1 および LAN ポート 2 のサブネットマスクを表示します。
13. Subnet Mask_3 14. Subnet Mask_4	サーバブレードの LAN ポート 3 および LAN ポート 4 のサブネットマスクを表示します。(BX660 サーバブレードのみ)
9. / 15. Default Gateway_1 10. / 16. Default Gateway_2	サーバブレードの LAN ポート 1 および LAN ポート 2 のデフォルトゲートウェイを表示します。
17. Default Gateway_3 18. Default Gateway_4	サーバブレードの LAN ポート 3 および LAN ポート 4 のデフォルトゲートウェイを設定します。(BX660 サーバブレードのみ)
11. / 19. Hostname	ホストネームを設定します。
12. / 20. Master Image Reference	マスタイメージのディレクトリを設定します。
Status of Blade	サーバブレードの現在のステータスを表示します。
14. / 22. Automatic Recovery	オートマティックリカバリ機能を有効にするかどうかを設定します。
Status of Cloning	クローニングのステータスを表示します。
16. / 24. LAN status of slot	LAN ステータスを設定します。

重要

- ▶ IP Address、Subnet Mask、Default Gateway、Hostname、MasterImageReference 等は ServerView 等のソフトウェアにより自動的に設定されます。各種の Deployment ソフトの操作上変更が必要な場合以外は変更しないでください。

■ Fiber Channel (1_15)

ファイバーチャネルパススルーブレードの各種情報を表示します。

```

+-----+
|          Fiber_Channel Table          page_1_15          |
+-----+
(1) FC Pass Through_1 : ok
(2) FC Pass Through_2 : ok
Enter selection or type (0) to quit:

```

項目	内容
FC Pass Through_1 ~ FC Pass Through_2	<p>搭載されているファイバーチャネルパススルーブレードが表示されます。</p> <p>各ファイバーチャネルパススルーブレードの番号を選択すると、そのファイバーチャネルパススルーブレードに関する詳しい情報が表示されます。</p> <p>→ 「● FC Pass Through Information (1_15_1)」 (P.125)</p>

● FC Pass Through Information (1_15_1)

選択したファイバーチャネルパススルーブレードの情報を表示します。

```

+-----+
|          FC Pass Through Information          page_1_15_1          |
+-----+
(-) FC Pass Through Status : ok
(-) FC Pass Through Manufacture : **
(-) FC Pass Through Manufacture Date : DD/MM/YYY nn:nn:nn
(-) FC Pass Through Serial Number : **
(-) FC Pass Through Product Name : **
(-) FC Pass Through Model Name : **
(-) FC Pass Through Hardware Version : nn
(-) FC Pass Through Voltage Status : ok
(-) FC Pass Through Voltage Maximum : nnn
(-) FC Pass Through Voltage Minimum : nnn
(-) FC Pass Through Voltage Normal : nnn
(-) FC Pass Through Voltage Current : nnn
(13) FC Present Table
Enter selection or type (0) to quit:

```

項目	内容
FC Pass Through Status	ファイバーチャネルパススルーブレードの状態を表示します。
FC Pass Through Manufacture	ファイバーチャネルパススルーブレードの製造元を表示します。

項目	内容
FC Pass Through Manufacture Date	ファイバーチャネルパススルーブレードの製造年月日を表示します。
FC Pass Through Serial Number	ファイバーチャネルパススルーブレードのシリアル番号を表示します。
FC Pass Through Product Name	ファイバーチャネルパススルーブレードの製品名を表示します。
FC Pass Through Model Name	ファイバーチャネルパススルーブレードのモデル名を表示します。
FC Pass Through Hardware Version	ファイバーチャネルパススルーブレードのハードウェア版数を表示します。
FC Pass Through Voltage Status	ファイバーチャネルパススルーブレードの電圧状態を表示します。
FC Pass Through Voltage Maximum	ファイバーチャネルパススルーブレードの最大電圧の値を表示します。
FC Pass Through Voltage Minimum	ファイバーチャネルパススルーブレードの最小電圧の値を表示します。
FC Pass Through Voltage Normal	ファイバーチャネルパススルーブレードの通常の電圧の値を表示します。
FC Pass Through Voltage Current	ファイバーチャネルパススルーブレードの現在の電圧の値を表示します。
13. FC Present Table	ファイバーチャネルモジュールの接続状態を表示します。

5.4.3 Console Redirection

マネジメントブレードから、サーバブレードとスイッチブレードのコンソールリダイレクションを行うことができます。サーバブレードは、POST 画面の表示や BIOS セットアップユーティリティの操作などを行います。スイッチブレードは、コンソールメニューの表示や操作を行います。

重要

- ▶ コンソールリダイレクションは、搭載されている複数のサーバブレードおよびスイッチブレードに対してそれぞれ同時に 1 つしか使用することはできません。

```
+-----+
|           Console Redirection Table           page_3           |
+-----+

(1) Console Redirect Server Blade
(2) Console Redirect Switch Blade
(3) Set Return Hotkey , Ctrl+(a character) : Q
Enter selection or type (0) to quit:
```

項目	内容
1. Console Redirect Server Blade	サーバブレードのコンソールリダイレクションを行います。 → 「■ 1. Console Redirect Server Blade (3_1)」(P.128)
2. Console Redirect Switch Blade	スイッチブレードのコンソールリダイレクションを行います。 → 「■ 2. Console Redirect Switch Blade (3_2)」(P.129)
3. Set Return Hotkey , Ctrl+ (a character)	コンソールリダイレクション画面でリターンホットキー 「【Ctrl】+ 【(使用する文字) キー」を入力すると、CLI の画面に戻ることができます。 ここではリターンホットキーで使用する文字キーを設定します。初期値は【Q】です。 変更する場合は、選択後にリターンホットキーとして使用する文字キーを入力します。 使用する文字キーは、【M】キーを除く【A】～【Z】キーを設定してください。

■ 1. Console Redirect Server Blade (3_1)

サーバブレードのコンソールリダイレクションを行います。

```

+-----+
|           Console Redirect Server Blade           page_3_1           |
+-----+

(1) Console Redirect Server Blade_1
Enter selection or type (0) to quit:

```

搭載されているサーバブレードの一覧が表示されます。

コンソールリダイレクションを行いたいサーバブレードを選択すると、コンソールリダイレクション画面が表示されます。

コンソールリダイレクションの画面からリターンホットキーを押すと、メニュー画面に戻ることができます（リターンホットキーについては、「3. Set Return Hotkey , Ctrl+ (a character)」(→ P.127) を参照してください)。

POINT

- ▶ サーバブレードはコンソールリダイレクションをサポートしています。コンソールリダイレクションはテキスト画面に対してのみ行えます。グラフィックモードを使用した画面（日本語 DOS 環境を含む）は出力できません。コンソールリダイレクションは、マネジメントブレードと接続されたサーバブレードのシリアルポート A によって行われます。コンソールリダイレクション機能によって、BIOS の操作などの管理作業をマネジメントブレードの CLI から行うことができます。コンソールリダイレクションに使用するエミュレート端末は基本 ASCII 文字列のみに限られていて、矢印キーやファンクションキー、【Ctrl】キーはありません。ただし、BIOS 設定などでは、通常のキー入力として必要になります。特殊なキー入力（エスケープシーケンス）を行うと、これらのキー入力が可能になります。

キー	エスケープシーケンス
【F1】	【ESC】 【1】
【F2】	【ESC】 【2】
【F3】	【ESC】 【3】
【F4】	【ESC】 【4】
【F5】	【ESC】 【5】
【F6】	【ESC】 【6】
【F7】	【ESC】 【7】
【F8】	【ESC】 【8】
【F9】	【ESC】 【9】

キー	エスケープシーケンス
【F10】	【ESC】 【0】
【F11】	【ESC】 【!】
【F12】	【ESC】 【@】
【Home】	【ESC】 【h】
【End】	【ESC】 【k】
【Ins】	【ESC】 【+】
【Del】	【ESC】 【-】
【Page Up】	【ESC】 【?】
【Page Down】	【ESC】 【/】
【↑】	【ESC】 【[】 【A】
【↓】	【ESC】 【[】 【B】
【→】	【ESC】 【[】 【C】
【←】	【ESC】 【[】 【D】
【Shift】 【Tab】	【ESC】 【[】 【Z】
【Reset】	【ESC】 【Del】 または 【ESC】 【Ctrl】 + 【BackSpace】

■ 2. Console Redirect Switch Blade (3_2)

スイッチブレードのコンソールリダイレクションを行います。

```

+-----+
|           Console Redirect Switch Blade           page_3_2           |
+-----+

(1) Console Redirect Switch Blade_1
Enter selection or type (0) to quit:

```

搭載されているスイッチブレードの一覧が表示されます。

コンソールリダイレクションを行いたいスイッチブレードを選択すると、コンソール画面が表示されます。

コンソールリダイレクションの画面からリターンホットキーを押すと、メニュー画面に戻ることができます（リターンホットキーについては、「3. Set Return Hotkey , Ctrl+ (a character)」(→ P.127) を参照してください)。

POINT

- ▶ スwitchブレードはコンソール管理インタフェースをサポートしています。このメニューからアクセスできます。

5.4.4 Logout

ログアウトしてログイン画面に戻ります。

5.4.5 Reboot

マネジメントブレードの再起動を行います。

```
+-----+  
| Reboot Selection: [1] Yes or [0] No page_6 |  
+-----+  
  
(1) Yes,Reboot Now!  
Enter selection or type (0) to quit:
```

(1) を選択すると次の画面が表示され、マネジメントブレードが再起動します。

```
+-----+  
| Management Blade Reboot Now! page_6_1 |  
+-----+
```

POINT

- ▶ マネジメントブレードの再起動を行うと、サーバブレードの KVM の選択や LAN インタフェースの接続 (Web UI、Telnet など) はいったん解除されます。操作を続ける場合はマネジメントブレードの起動が終了したあと、再度操作を行ってください。
- ▶ マネジメントブレードの再起動を行っても、メイン電源およびサーバブレードの電源状態は保持されます。
- ▶ 再起動を行うと、マネジメントブレードのマスタとスレーブが切り替わります。CLI に LAN インタフェースで接続している場合には、いったん接続が切れますので再度接続してください。シリアルインタフェースで接続している場合には、「5.3 マネジメントブレードの起動およびログオン」(→P.65) を参照して、マスタに接続し直してください。

5.4.6 System Information Dump

シャーシ内に搭載されているブレードの、各種情報を表示します。
本メニューは、各種情報を CLI を経由してダンプするときを使用します。通常は、各ユニットのメニューで確認を行ってください。

```

+-----+
|   System Information Dump                       page_7   |
+-----+

(1) System Configuration/Status
(2) SEL for Management Blade
(3) Server Blade Configuration/Status
(4) SEL for Server Blade
Enter selection or type (0) to quit:

```

項目	内容
1. System Configuration/Status	シャーシおよび搭載されているすべてのマネジメントブレード、スイッチブレードの情報を表示します。
2. SEL for Management Blade	マネジメントブレードのログ情報を表示します。
3. Server Blade Configuration/Status	搭載されているすべてのサーバブレードの情報を表示します。
4. SEL for Server Blade	搭載されているすべてのサーバブレードのログ情報を表示します。

第 6 章

技術情報

6

この章では、マネジメントブレードの仕様および運用上の留意点について説明しています。

6.1 仕様	134
6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項	135
6.3 留意事項	136

6.1 仕様

本製品は、シャーシに標準搭載されています。仕様は次のとおりです。

項目	概要
品名	マネジメントブレード
外部インタフェース	LAN (10BASE-T: 全二重固定) × 1、 シリアル × 1
外形寸法 (長さ×幅×高さ)	275 × 75 × 26 mm
質量	約 0.4kg
使用環境条件	シャーシ本体の使用環境条件と同様

6.2 リモート電源切断、シャットダウン機能に関する留意事項

6.2.1 リモート電源切断について

マネジメントブレードにはシャーシやサーバブレードの電源を Web UI や CLI からリモートで切る機能があります。

この機能を使用する場合は、次の事項について注意してください。

- シャーシのメイン電源をリモートで切る場合は、シャーシに搭載されているサーバブレードの電源がすべて切れていることを確認してから行ってください。サーバブレードが動作していると、動作中のシステムが破壊されるおそれがあります。
- サーバブレードの電源切断を指示するときは、サーバブレード上で OS を終了してから行ってください。

6.2.2 graceful シャットダウン機能について

graceful シャットダウン機能を使用する場合は、以下の注意事項を守ってください。

- サーバブレードに ServerView をインストールしてください。
- マネジメントブレードのファームウェアの版数と、サーバブレードの BMC ファームウェアの版数を、次の組み合わせにしてください。

マネジメントブレードのファームウェアの版数	サーバブレードの BMC ファームウェアの版数
1.33C	3B07
1.41 以降	3B08 以降

6.3 留意事項

マネジメントブレード使用上の留意事項を次に示します。

■ 電源ケーブル取り外し時に記録されるイベントログの注意事項

シャーシから電源ケーブルを取り外したあと、マネジメントブレードのイベントログに次のログが記録されますが、ケーブルを取り外したことによるログですので無視してください。

```
MM/DD/YYYY HH:MM:SS Critical 49198 System overall status is critical.
MM/DD/YYYY HH:MM:SS Critical 49254 Power supply overall status is
critical.
MM/DD/YYYY HH:MM:SS Major      32796 Power supply unit X is error.
MM/DD/YYYY HH:MM:SS Major      32813 System overall status is error.
MM/DD/YYYY HH:MM:SS Critical 49253 Power supply overall status is
degraded.
MM/DD/YYYY HH:MM:SS Major      32796 Power supply unit X is error.
(xは電源ユニット番号)
```


索引

- あ**
 アラームハンドラ..... 30, 33
- い**
 イベントログ 30, 33, 114
- え**
 遠隔操作..... 24
- か**
 管理ソフト..... 16
 管理端末..... 14, 16
 管理ユーザの設定..... 19
- け**
 ゲートウェイの設定..... 40
- こ**
 コネクタ
 シャーシ接続用コネクタ 11
 シリアルポート..... 11
 10BASE-T コネクタ 11
 コンソールメニュー..... 67
 コンソールリダイレクション..... 127
- さ**
 サーバブレード 10, 51, 128
 サブネットマスク..... 18
 設定 40
- し**
 システムファンユニット 10, 30, 38, 80
 シャーシ..... 14, 30, 38
 ジャンパピン 11
 状態監視..... 24
 初期設定..... 16
 シリアルインタフェース 10, 62
 設定 18
- す**
 スイッチブレード..... 10, 50, 110, 129
- て**
 デフォルト値 18, 40, 117
- 電源ユニット 10, 30, 36, 80
- は**
 パスワード..... 16, 47
 設定 112
 変更 31
- ふ**
 ファン 39
- ま**
 マネジメントブレード..... 10, 49
 マネジメントブレード異常ランプ..... 11
 マネジメントブレードマスタ表示ランプ..... 11
- ゆ**
 ユーザの追加 31, 112
 ユーザ名..... 16, 47
- り**
 留意事項..... 136
- ろ**
 ログアウト..... 130
 ログオン..... 28, 65
- C**
 CLI 16
 使用方法..... 62
 CLI からのパスワードの変更..... 19
- D**
 DHCP..... 40
- H**
 HTTP 31, 41, 71
- I**
 Internet Explorer..... 28
 IP アドレス..... 18, 28
 設定 31, 40
 表示 106

L

LAN アクティブランプ	11
LAN インタフェース	10, 63
設定	17
LAN リンクランプ	11

M

MAC アドレスの表示	107
-------------------	-----

N

Netscape	28
----------------	----

P

PXE (Preboot eXecution Environment)	25, 56
---	--------

R

RemoteControlService	24, 62
----------------------------	--------

S

ServerView	24
SNMP	10, 31, 43, 72
SNMP コミュニティ名	31, 73
SNMP トラップ	31, 73
SystemcastWizard Professional	24

T

Telnet	62
設定	31, 41, 74

W

Web UI	16, 28
Web UI からのパスワードの変更	19

PRIMERGY BX600

ハードウェアガイド マネジメントブレード編
B7FH-2521-02-00

発行日 2005年3月
発行責任 富士通株式会社

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。